



5098
N77

昭和十五年一月

製鋼部ニ於ケル災害ノ回顧

八幡製鉄所産業報國會

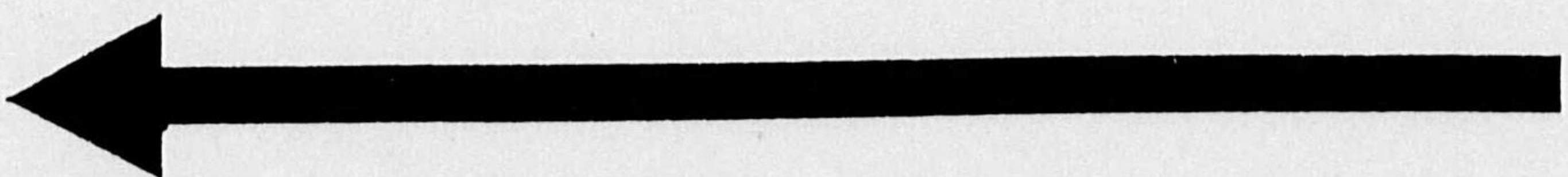
製鋼部會

秘

【所外發表
ヲ禁ズ】

納
申

始



509.8
N77

業樂全安

實ニ安全樂業ノ建設コソ

時艱克服ノ第一歩デアアル

安全樂業ヘノ跳躍コソ非常時

突破ノ捷路デアリ即又

實ニ國力ノ跳躍デアアル



907
E49

業 樂 全 安

實一圖式、編纂されて、
突進、畫期されて、増又
安全樂業へ、編纂して、非常朝
初版京州、第一巻まで、
實一安全樂業、編纂して、



目 次

ハ	シ	ガ	キ	一
安全競争ニ於ケル優勝工場	第 一	表	二
各部別公傷病件数ト百分率	第 二	表	三
工員職夫別ニミタ休業以上ノ災害件数ト災害率	第 三	表	四
災害死亡者数	第 四	表	五
工場別災害死亡者数	第 五	表	六
休業以上ノ災害原因	第 六	表	七
工場別災害原因	第 七	表	八
工場別災害件数ト百分率	自第八表一至第二十表	二十九	四十一
製鋼部内課別災害	自第二十一表一至第三十二表	四十三	五十四

目次

一、時局ト「人」

二、時局ト「人」

三、安全運動

四、安全運動

五、安全運動

六、安全運動

七、安全運動

八、安全運動

九、安全運動

十、安全運動

十一、安全運動

十二、安全運動

十三、安全運動

十四、安全運動

十五、安全運動

十六、安全運動

十七、安全運動

十八、安全運動

十九、安全運動

二十、安全運動

ハシガキ

一、時局ト「人」

人的資源が今程重要視セラレタコトが嘗ツテアツタダラウカ。
 複雑多難ナ國際情勢下ニ於テ而カモ事變ト建設ト云フ未會有ノ大事業ヲ一緒ニヤツテイル現在ノ日本デアルコトヲ思ヘバ誠ニ當然過ギル程ノ當
 然デアル、我々ノ職場ヲ通ジテ之ヲ見テモ又然リ、機械モ物モ乃至ハ増産ト云ヒ能率増進ト云フモ「人」ヲ措イテハ無意味デアルト云フコトガ
 現在程痛感セラレタコトヲ知ラナイ。



「人」ノ重要サガ一躍向上シ「人」ニ對スル要求ガ急激ニ高度化シタコトハ確カニ時局ノ影響デナケレバナラヌ。
 時局ト安全運動
 産業興隆ノ背後トハ熱心ヲ災害ガ伴フ、而シテ災害者自身ハ勿論其職場工場更ニ家庭ヤ社會ガ被ル影響ハ誠ニ甚大デアル、各關係者ガ災害ノ撲滅ニ大奮力ヲ傾注スルノハ誠ニ當然デアル。
 然レ非常時局下ノ安全運動ハ別ナ意味デ見直サレネバナラヌト思フ。
 國家ノ重要資源タル「人」ヲ安全ヲ計ルコトハ實ニ今コソ報國ノ一大運動デアル、榮アル「皇國産業戰士」トシテノ使命達成ノ爲ニ我等ノ安全運動ハ今コソ最強化サレ最勵化サレネバナラヌ時デアル。

三、安全運動
 爾ツテ最近ノ災害發生狀況ハ如何、果シテ此ノ非常時的ナ自覺ガ安全成績ノ上ニ充分反映シテイルヤ否ヤ、時局ノ要望ニ副フダケノ恥ナク悔
 ナキ實績ヲオサメ得タリヤ否ヤ。

統計ハ實ニ功料表デアルト共ニ又忠實ナル案内者デアリ親切ナル指導者デモアル、同時ニ又雄辯デ率直ナ解説者デアル、
 如何ニ懲目ニ見テモ部内ダケテ年間十數名ノ死亡者ヲ出シ休業件數三千ヲ超ヘ無休業災害五千ニ垂ントスル數字ハ驚異的デナクテ何デアラウ、
 試ニ申譯ナイ極ミデアル、況ンヤ之等ノ災害タルヤ不可抗力ニヨルハ極メテ稀ニテ關係者ノ注意ノ不充分ニ歸スルノガ大部ナルニ於テオヤデア

ル。
四、我等ノ覺悟

然シ如上ノ成績ハ實ハ誰ノ咎デモナクテ取不直部内全従業員ノ共ニ分擔スベキ責デアルコトヲ思ヘバ一刻ト雖安閑タルヲ許サレナイノハ當然
デアル、反省ヤ回顧ガ發奮ヲ伴ハネバ、ソレハ徒ラニ死兒ノ輪ヲ數フルニ墜ツル。
自責ヨシ、自戒ヨシ、而シテ部ノ名譽ニカケテ部内全従業員ガ勵起スル處ニ災害魔何ヲカ爲シ得ンヤデアル。
安全成績ノ飛躍的ナ向上、之コソ國家ガ我々ニ要求スル最モ大キナコトノ一デアルト思フ。
現下ノ事變モ建設モ之ニヨツテ愈其力強イ歩ミヲ續ケル。

實ニ安全樂土ノ建設コソ時艱克服ノ第一歩デアル。

安全樂土ヘノ跳躍コソ非常時突破ノ捷徑デアリ即又實ニ國力ノ跳躍デアルト信ズル次第デアル。

(一) 安全競争ニ於ケル優勝工場

安全競争ガ昭和十年前期カラ實施サル、コト、ナツテ以來第七回目ヲ終ツタ、此間ニ於ケル輝カシイ優勝工場ヲ掲ゲテ以テ卷頭ヲ飾ルコト、
シタ。

災害ガ若シ絶滅シエラレナイモノトスレバ最大眼福迄之ヲ減少セシメネバナラヌ、ソレニハ勿論尋常ナラヌ努力ガ要ル、工場一丸トナツテノ眞
劍サガ無ケレバ出來ヌ。

安全掛ガ中心トナツテ所内ニ張ラレタ安全網ハ組織ニ於テハ完ツタモノト云ヘンモ水モ漏ラサヌ底ノモノデハ決シテナイ、些カノ油斷ヤ間隙モ
アラバト虎視耽々タルノハ實ニ網中ノ魚デナクテ恐ロシキ災害魔デアル。

之ヲ睥睨シ之ヲ緊縛シテ最高率ノ災害低下ヲナシトゲタノガ左ノ諸工場デアル、努力ノ結晶、熱意ノ結實、誠ニ輝カシクモ榮アルコト、云フ可
キデアル。

望ムラクバ全工場ガ舉ツテ飛躍的ナ災害低下ヲ實現シ以テ産業報國ノ實ヲアゲンコトヲ。



第一表

安全競争ニ於ケル優勝工場

期 別	所 内 全 般	製 鋼 部 内
昭和十年前 後 期	運輸、海岸現場	四製鋼、七分塊、三厚板、
昭和十一年 前 期	洞 岡、熔 鑪	二製鋼、線 材、二厚板、
同 後 期	線 材 工 場	特殊鋼、四大形、二薄板、
昭和十二年 前 期	二 中、小 形	三製鋼、線 材、一薄板、
同 後 期	第 一 鉄 力	四製鋼、二中小形、熔 鉄、薄 板、
昭和十三年 前 期	窯業課、整理及修理班	四製鋼、線 材、熔 鉄、一鉄力、
		四製鋼、二三大形、三四五分塊、一鉄力、

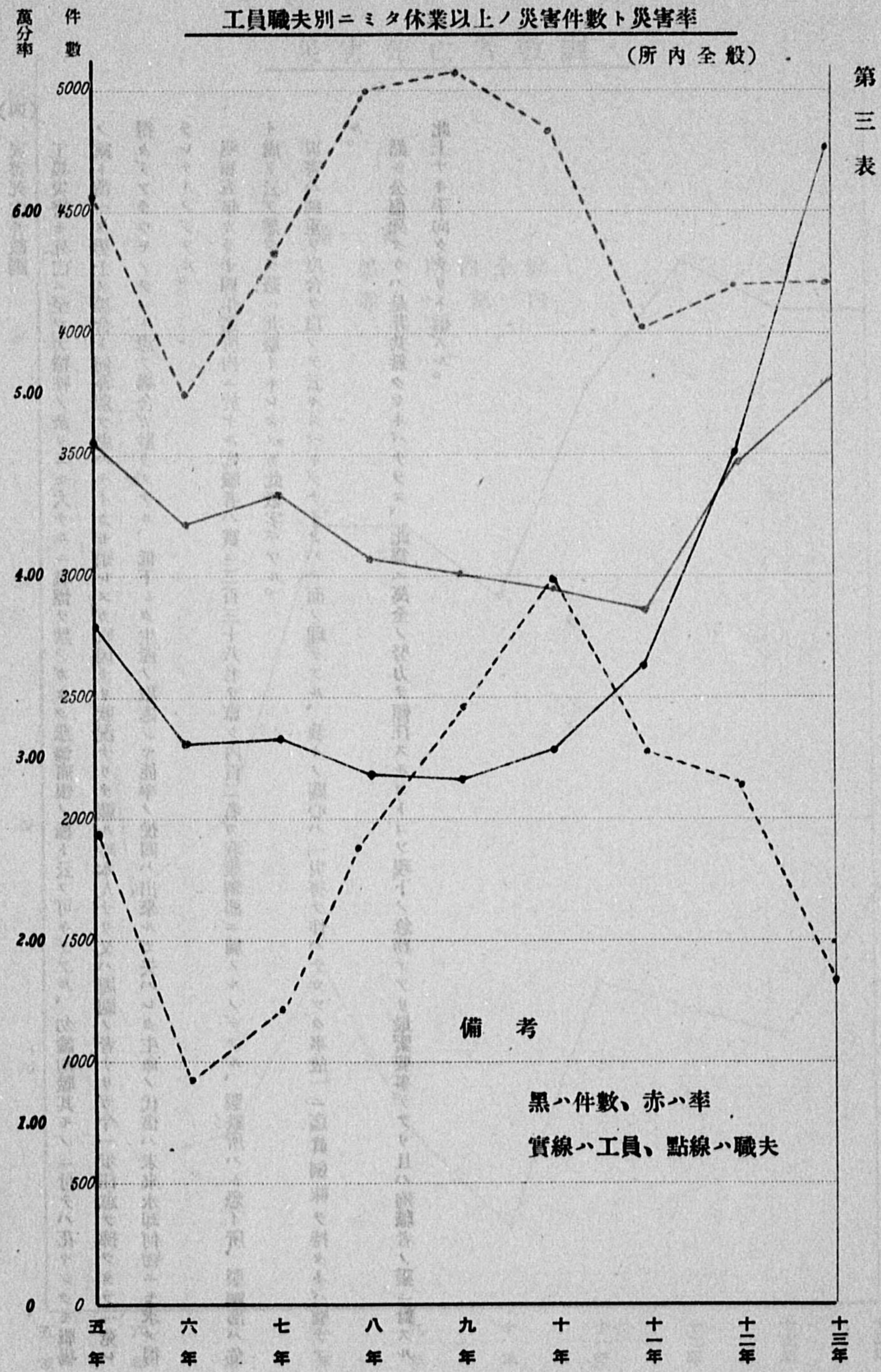
(二) 各別公傷病件数ト高分率

第二表ハ所内ニ於ケル休業以上ノ公傷病ヲ各別ニ示シタモノデアルガ六千ノ人ガ毎年公傷病ニヨツテ休業スルト云フコトハ何トシテモ驚異的ナ事實デアリ更ニ休業ニ至ラヌ程度ノモノガ之以上ノ數字ニノボルコトヲ併セ考フル時誠ニ寒心ニ耐ヘナイ次第ト云フベキデアル、我製鋼部ガ當所ノ心臟部トシテ生産作業ニ極メテ重要ナ役割ヲ持ツテイルコトハ敢テ贅言ヲ要シナイガ然シ左表ニヨルト災害ニ於テモ又當所ノ片棒ヲ擔ツテイルコトハ不面目此上ナシト云ハネバナラヌ。件数ニ於テ當所ノ過半ヲ占メ尙ホ災害率ニ於テモ斷然他部ヲ引離シテイルノハ當部ガ最モ危険性ガ多イコトヲ物語ルモノデアル。

之ニ對シテ「作業ノ性質上止ムヲ得ナイ」ト云ハ、夫迄デアル。然シ災害原因ノ大部ハ決シテ不可抗力ニヨルモノデナイコトニ鑑ミル時我々ハ注意ノ未ダ周到ナラズ努力ノ又充分ナラザリシヲ篤ト自戒自省セネバナラヌ、而シテ奮起協力以テ安全成績ノ向上ニ精進スベキデアル。之コソ實ニ我々ニ課セラレタ焦眉ノ問題ナリト信ズル。

第二表 各別公傷病件数表(休業以上)

年度	部別	昭和十年			昭和十一年			昭和十二年			昭和十三年		
		万分率	死亡者数	災害件数	万分率	死亡者数	災害件数	万分率	死亡者数	災害件数	万分率	死亡者数	災害件数
	總務	二・〇〇	〇	八二	一・四九	〇	六三	〇・一一	〇	二	〇	〇	
	銑鉄	五・四八	〇	二二五	四・二九	二	二五八	四・二二	〇	九	八	五二九	
	製鋼	五・六七	一	七四七	四・九五	四	六九一	三・四六	八	六七八	九	六五二	
	條鋼	六・五五	一	七六二	五・三五	七	六四八	三・四六	八	六七八	九	六五二	
	鋼板	八・〇三	一	九四六	七・七二	二	一〇〇二	七・三一	二	三・二二三	一	三・一九七	
	炭	一・八八	二	一一五	一・五七	〇	九一	七・三一	二	三・二二三	一	三・一九七	
	窯業	三・五〇	四	一五〇	二・二六	四	一〇六	三・五七	一	一・二四一	一	一・五三三	
	工務	四・六六	一	三三七	四・三二	四	三二七	三・五七	一	一・二四一	一	一・五三三	
	動力	一・六四	一	八七	二・七九	一	一九一	〇・六八	〇	一三	〇	二三	
	運輸	六・二六	八	六四三	三・九一	一四	四四五	一・七〇	〇	一四	〇	一四	
	檢定課	一・〇〇	〇	一六	〇・七一	〇	二二	一・七〇	〇	一四	〇	一四	
	研究所	〇・七〇	〇	四	二・〇五	〇	一六	〇・四〇	〇	一	〇	三	
	病院	〇・八五	〇	三	〇・八〇	〇	三	〇・四〇	〇	一	〇	三	
	合計	五・〇三	二九	五・二二五	四・三五	三八	四・八四三	四・九〇	四〇	五・五八三	四一	六・〇二二	



(三) 工員、職夫別ニミタ休業以上ノ災害件數ト災害率

第三表ハ休業以上ノ災害件數ト率トヲ工員ト職夫トニ區別シテミタ所内全般ノ災害狀況デアアル。

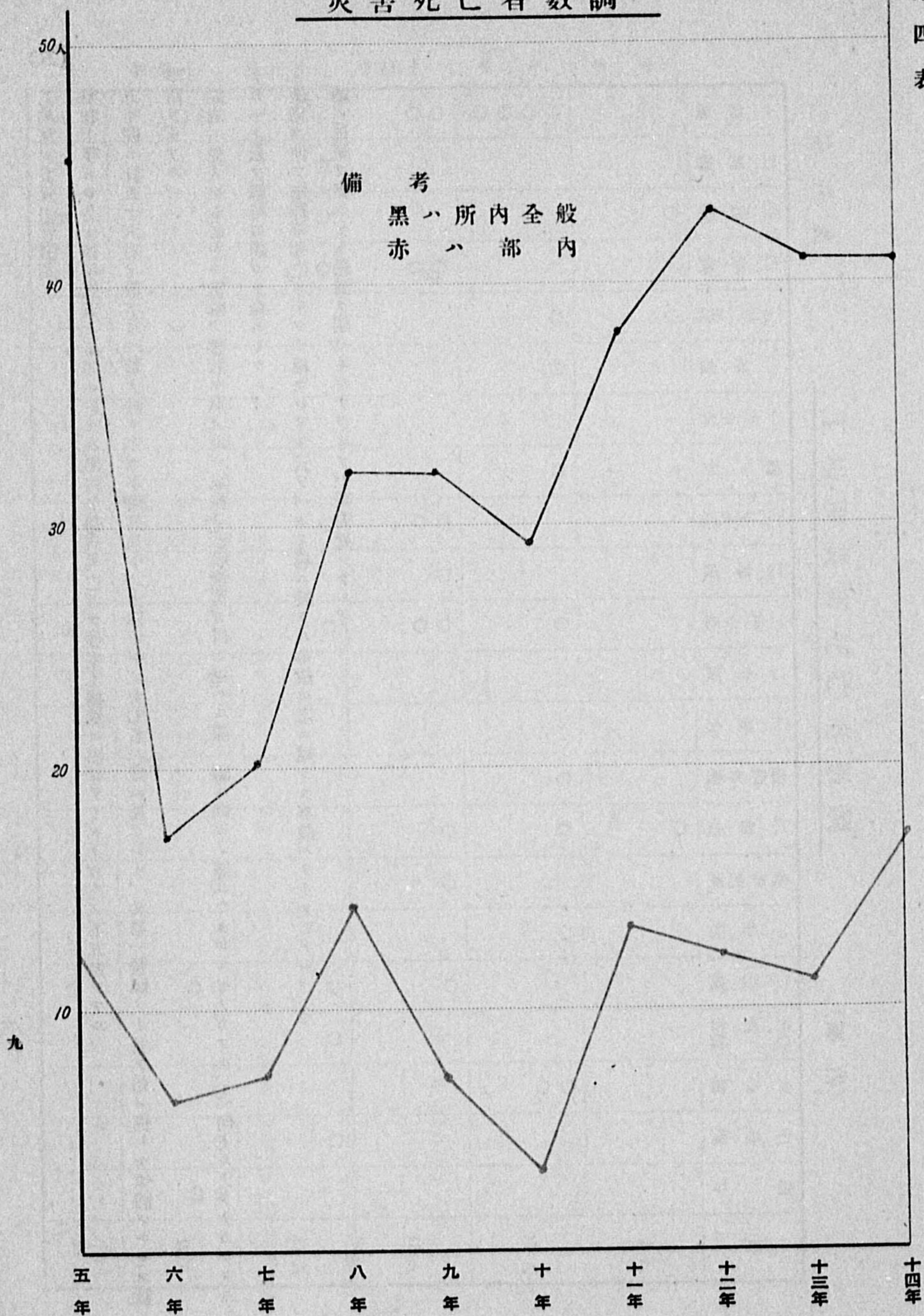
之ニヨリ何ヨリモ先ヅ目立ツノハ職夫ノ災害ガ工員ニ比ベテ著シク高率ナルコトデアアル、之ハ前者ノ職場ガ一定シナイコトニヨル不熟練ト安全訓練ナリ安全感ノ概ネ充分ナラザルニヨルコトヲ如實ニ物語ルモノト云ヘヤウ、之ハ又工員ノ件數及率ガ十二年十三年ニ著シク上昇ヲ示シテイルコトノ説明ヲモ兼ヌルト思フ、何トナレバ此頃コソ事變應召者ノ補充トシテ多數ノ職夫ガ定期工トナリ或ハ澤山ノ未経験者ガ新規採用セラレタ事實ヲ我々ハ知悉シテイルカラ。

誠ニ「數字ヨ、汝ハ正直者ナリ」デアアル

ソレニシテモ自己ノ擔當スル仕事ヲヨク知ルコト、安全訓練トガ如何ニ災害ニ關聯ガアルカト云フコトガ今更ノ様ニ痛感サレル、此表コソ確カニ夫レヲ示唆シテ居ルト云ヘル。 仕事ヲ知レ、而シテ知ラシメヨ。 注意セヨ、且ツ注意セシメヨ。 生兵法ガ怪我ノ基タルハ誠ニ古今ヲ通ワタ名言デアアル。

災害死亡者數調

第四表



備考
 全般内
 内部
 黒ハ
 赤ハ

(四) 災害死亡者數調

工場災害モ死亡ニ至ツテ犠牲ノ余リニモ大ナルニ戦慄ヲ禁ジガタク悲慘痛恨ノ極ト云フ可キデアル、勿論殉職其モノニ付テハ花々シクモ戰場ノ露ト消ヘタ勇士ノ場合ト何等別ツ處ハナイカモ知レヌガ原因ナリテ願ル時本人ナリ又ハ周圍ノ者ナリガ今一步注意ヲ拂ツタラ「免レ得タデアラウモノヲ」ト思フ場合ガ渺ラズアル、低下シタ生産ノ取返シヤ能率ノ挽回ハ出來ルガ失ハレタ生命ノ代償ハ未來永却何物ニモ求メ得ラレナイノデアル。

昭和五年カラ十四年迄所内ニ於ケル殉職者ハ實ニ三百三十八名ヲ算シ内百二名ガ我製鋼部ニ屬スルノデアル、製鉄所ハシ恐イ所、製鋼部ハ危イ處ト云フ感シテ蔽ヘ共蔽イキレヌノガ此數字デアル。

災害ハ輕重ノ度合ヲ以ツテ云々スベキデナイノハ一面ノ理デアル、我々ノ關心ハ「災害ヲ伴ハナカツタ事故」ニ迄眞剣味ヲ持タネバ噓デア

然シ公傷死ダケハ是非共無クセネバナラヌ、此爲ニ萬全ノ努力ヲ傾注スルコトコソ現下ノ急務デアリ最緊要事デアリ且ハ殉職者ノ靈ニ對スル此上ナキ手向ケナリト信ズル。

(五) 工場別災害死亡者数調

昭和十年カラ全十四年迄五ケ年間に於ケル部内公傷病死亡者ヲ發生工場別ニ出シテミタノガ左ノ第五表デアル。
 五年間ニ計五十六名ノ數字モ一驚ノ外ナイガ事變眞只中ノ十四年中ノ十七名ハ殊ニ甚ダシイ、又第一製鋼ノ十名ヲ始メ何レモカ諦メキレヌ數字許リデアル。

此表ニ見入ツテ居ルト當時ノ慘狀ヤ氣ノ毒ナ家族ノ悲嘆慟哭ガ目ニ見ヘル様テ誠ニ惻々ノ感ニウタレルモノガアル、「何トカナラナカッタモノカ」ト云フ氣持ガ聳々ト身ニセマル。

産業ニ伴フ犠牲モ死亡ニ至ツテ極マレリト云フベク工場ニ於ケル事故モ之ニ越シタ事故ハナイノデアル。
 誠ニ萬策ヲ盡シテモ絶滅ナ期セネバナラヌノハ災害死デアル。

第五表 工場別災害死亡者数調 (部内)

計	十	十一年	十二年	十三年	十四年	計
計	3人	15人	12人	11人	17人	56人
鋼片				○	○	2
七分塊				○		2
六分塊		○				3
三分、四分、五分塊				○		1
二分塊			○	○	○	4
一分塊					○	2
高級珪素			○		○	2
二酸力	○		○			3
鍛鋼外輪		○				1
一酸力					○	1
二中板					○	1
二中小形			○	○		4
二厚板			○			1
二、三、大形			○	○		4
線材						1
一中小形					○	1
一厚板					○	1
一、大形、中形					○	2
四製鋼			○			3
三製鋼				○		4
二製鋼				○		3
一製鋼					○	10

(六) 休業以上ノ災害原因(部内)

闇夜ノ鉄砲ガアタラヌ様ニ如何ナ名醫モ病源ヲ究メズシテノ投薬デハ病ヲ治シ得ナイ、原因ヲ突止ムルコト、目標ヲ判然トスルコトハ何ヲオイテモ第一デアラネバナラヌ。

部内ニ於ケル休業以上ノ災害原因ノ主ナモノヲ件数順ニ列記シタノガ第六表デアアル。原因ハ約五十種位ニ別ケラレタノデアアルガ左表ノ如ク件数ノ多イノハ毎年決ツテイル。

所謂作業ノ特性カラキタ當然ノコトナランモ此ノ災害ノ偏在ハ災害ヲ防止シ低下セシメン爲ニハ却ツテ好都合ダ共云ヘル、百ノ雑兵ヲ目指スヨリ大將株ノ首ヲ狙フコトダ密集隊形ノ災害魔ヲウツコトガ最効果的デモアル。

左表ニ掲ゲタ原因ニヨル災害ダケデ年間二千三百件ニ近イト云フコトハ之ニ無休業ヲ加フルト實ニ年間五千件位ノ災害ヲ算スルコトヲ意味スル。

徒ラナル吃驚ヲ止メヨ。

我等ノ進路ハ方向モ目標モ誠ニ判然トシテイル。

唯真劍ナル協力ト而シテ邁進アルノミデアアル。

第六表 休業以上ノ災害原因(部内)

原因別	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
鋼板角ニ觸レタルモノ	一七七	三六二	四一五	九五四
物品取扱ヒニ無理シタルモノ(捻挫)	二二七	三五四	二六九	八五〇
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ	二三六	二五〇	二八〇	七六六
墮キ入り倒レシニヨルモノ	二二二	二三〇	二三三	六七四
取扱中ノ物体ヨリ手ヲにラシ又ハ取落シタルモノ	一六四	二三八	一九二	五九四
取扱中ノ物体ト他ノ物トニ挟マレシモノ	一三二	二二五	一六八	五一五
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ	一四八	一五二	一九九	四九九
ロール又ハ之ニヨリ加工中ノ物体ニヨルモノ	一五五	一一三	一八三	四五一
物体ノ落下、仁落、飛來ニヨルモノ	一〇六	一三〇	一一一	三三七
高熱物体ニヨルモノ	三九	一六八	一一〇	三三七
ワイヤー、チェーン、フック等ニヨルモノ	五二	二二八	一四〇	三三〇
剪断機、壓搾機又ハ之ニヨリ工中ノ物体ニヨルモノ	七八	七一	一〇三	二五二
異物眼ニ入ルモノ	七五	一一四	六三	二五二

(七) 工場別災害原因調(休業以上、第五位迄)

部全體トシテノ災害原因調カラ更ニ一步ヲ進メテ各工場別ニ出シテミタノガ第七表デアル、之ニ依ルト作業ノ特性ニ伴フテ夫々災害ニモ特性ガアルコトガ、誠ニ判然トシテイル、各工場ノ災害傾向、換言スレバ脆弱點ナリ間隙ナリヲ眼前ニ突付ケラレタ様ナ氣ガスル、ツマリ此表ハ各工場ノ安全進路ヲ指示シ使喚シテ居ル點ニ於テ意義ガアルト思フ、其内顯著ナ諸點ニ付テ述ベテミルト

○ 各製鋼工場ノ原因ガ共通シテイルノハ當然ト云ヘバ當然作ラ寧ロ不思議ナ位デアル、ソシテ「物體ノ落下、二落、飛來ニヨルモノ」ガ何レモ第一位カ第二位ヲ占メテ居ルコト、「起重機ニテ取扱中ノ物體ニヨルモノ」ガ各工場共相當ナ數字ヲ示シ、中ニモ第一製鋼ガ特ニ目立ツテイルノハ原因ガ原因ダケニ大イニ熟考ヲ要スルコト、思フ。

○ 部全體トシテ災害ノ主位ヲ占ムル「鋼板角ニ觸レタルモノ」及「物品取扱ヒニ無理シタルモノ」ガ兩鋼力工場ニ於テ大部ヲ持チ薄板壓延工場ガ之ニ次グノハ作業ノ特殊性ニ基因スルモノト思ハル、モ大イニ考ヘネバナラヌコトデアアル。

○ 「ロール又ハ之ニ依リ加工中ノ物體ニヨルモノ」ガ同ジ壓延工場ノ板關係ニ少クシテ條鋼壓延特ニ中小形ヤ線材、軌條ニ著シイノモ肯カルルコトハ云ヘ看過シテナラヌコト、思フ

○ 起重機ニ關係シタル災害ハ同ジ災害デモ危險ノ度合ガ大キイダケニ特ニ重視セネバナラヌノデアアルガ各工場共ホトンド災害者ヲ出シテ居ル、製鋼工場ニ付テハ前述ノ通りデアアルガ、第二厚板、第二中小形、二、三大形ト第二壓延課内ノ工場ニ目立ツノハ大ナル關心ヲ要スルコトデハナイダラウカ、又數コソ少イガ各分塊、鋼片工場ノ災害原因ノ主位ヲ占メテ居ルコトモ注意ヲ要スルコト、思フ。

○ 「一覆キ二倒レシニヨルモノ」ハ部全體ノ第四位ニブルガ原因トシテハ甚ダ耳觸リノ惡イ感ガスルノハ強チ筆者ダケデハナイト信ズル、之等ハ注意ト適當ナ對策ニ依ツテ相當低下セシメウル災害デハナイダラウカ。

安全運動ニ對シテハ各工場共充分ナ熱意ト努力トガ拂ハレテイルコトハ事實デアアルガ之等ノ數字ハ未ダ多分ノ餘地ガ存スルコトヲ示シテイルト思フ、

更ニ一段ノ奮起ニヨリ躍進的ナ安全成績ノ向上ヲ招來シ以ツテ時局ノ要望ニ副ハンコトヲ期シタイ

第六表 製鋼以上ノ災害原因(續前)

第七表 各工場別災害原因調(但休業以上・第五位迄)

原因	一、第一製鋼工場				
	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
起重機ニテ取扱中ノ物體ニヨルモノ	三五	五三	三九	三九	一六六
物体ノ落下、 <u>二</u> 落、飛來ニヨルモノ	三三	一五	二〇	二二	八〇
覆キ <u>二</u> 倒レシニヨルモノ	一九	一四	一六	一七	六六
取扱中ノ物體ヨリ手ヲ <u>二</u> ラシ又ハ取落シタルモノ	一三	一六	一一	二五	六五
取扱中ノ物體ト他ノモノト <u>二</u> 挟マレシモノ	一三	五	二七	一三	五八
二、第二製鋼工場					
原因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
物体ノ落下、 <u>二</u> 落、飛來ニヨルモノ	二五	一六	一三	一七	七一
物品取扱ヒニ無理シタルモノ(檢査)	二二	一四	一八	一六	七〇
覆キ <u>二</u> 倒レシニヨルモノ	一七	一五	一三	一九	六四
起重機ニテ取扱中ノ物體ニヨルモノ	三	一六	一六	一八	五三
取扱中ノ物體ト他ノモノト <u>二</u> 挟マレシモノ	二二	一一	一三	一六	五二

三、第三製鋼工場

原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ		一六	二三	二四	三三	九五
物体ノ落下、 <u>二</u> 落、飛來ニヨルモノ		三五	二二	一六	三三	九四
墮キ ^レ 倒レシニヨルモノ		二四	二二	二〇	二四	八九
物品取扱ヒニ無理シタルモノ（ <u>檢挫</u> ）		二四	二三	一九	一八	七四
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ		一九	二三	一一	二六	六九
四、第四製鋼工場						
原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
物体ノ落下、 <u>二</u> 落、飛來ニヨルモノ		一一	四	二九	二〇	六四
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ		九	八	三一	一三	六一
取扱中ノ物体ヨリ手ヲ ^レ ラシ又ハ取落シタルモノ		七	二二	二八	一四	六一
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ ^レ 扱マレシモノ		四	一三	二六	一五	五八
物品取扱ヒニ無理シタルモノ（ <u>檢挫</u> ）		四	七	一六	一九	四六

五、一大形、軌條工場

原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
ロール又ハ之ニ依リ加工中ノ物体ニヨルモノ		二五	一七	一	一四	五七
取扱中ノ物体ト他ノ物トニ ^レ 扱マレシモノ		一六	八	六	一二	四二
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ		八	一三	五	八	三四
物品取扱ヒニ無理シタルモノ（ <u>檢挫</u> ）		七	九	五	四	二五
墮キ ^レ 倒レシニヨルモノ		七	一〇	一	五	二三
六、第一厚板工場						
原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ ^レ 扱マレシモノ		四	二	五	六	一七
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ		三	四	七	一	一五
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ		一	三	五	六	一五
墮キ ^レ 倒レシニヨルモノ		二	六	四	一	一三
取扱中ノ物体ヨリ手ヲ ^レ ラシ又ハ取落シタルモノ		七		二	三	一二

七、第一中小形工場

原因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
ロール又ハ之依り加工中ノ物体ニヨルモノ	三一	三〇	二七	四二	一三〇
取扱中ノ物体ヨリ手ヲシテ又ハ取落シタルモノ	五	六	八	四	二三
物品取扱ヒニ無理シタルモノ(捻挫)	六	一	九	五	二一
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ	六	八	二	五	二一
高熱物体ニヨルモノ		二	八	五	一五
八、薄板					
原因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
鋼板角ニ觸レタルモノ	三六	二三	二二	一四	九五
頭キレリ倒レシニヨルモノ	三四	二〇	一一	五	七〇
高熱物体ニヨルモノ	二二	三	一六	八	三九
物品取扱ヒニ無理シタルモノ(捻挫)	一一	九	五	四	二九
ロール又ハ之依り加工中ノ物体ニヨルモノ	五	五	七	一〇	二七

九、平鋼工場

原因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
ロール又ハ之依り加工中ノ物体ニヨルモノ	四	一	二	二	九
ワイヤー、チェーン、フック等ニヨルモノ	一	一	三	四	九
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ	三	二	二	二	九
頭キレリ倒レシニヨルモノ	一	四	一	三	九
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ挟マレシモノ	三	一	二	三	九
十、線材工場					
原因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
ロール又ハ之依り加工中ノ物体ニヨルモノ	二三	一六	一一	二三	七三
頭キレリ倒レシニヨルモノ	二二	一	四	二	一九
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ	六	四	五	二	一七
物品取扱ヒニ無理シタルモノ(捻挫)	七	二	三		二二
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ挟マレシモノ	四	一	三	三	一一

十一、第二、第三大形工場

原因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
起重機ニテ取扱中ノ物体ニ依ルモノ	一四	一四	五	一九	五二
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ挟マレシモノ	一三	四	六	一〇	三三
腰キレリ倒レシニヨルモノ	六	四	六	四	二〇
物体ノ落下、仁落、飛來ニヨルモノ	六	四	一	五	一六
ワイヤー、チェーン、フック等ニヨルモノ	五	一	三	七	一六
十二、第二厚板工場					
原因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ	一	七	二七	一五	五〇
取扱中ノ物体ヨリ手ヲ仁ラシ又ハ取落シタルモノ	六	四	九	五	二四
剪断機、壓搾機又ハ之ニヨリ加工中ノ物体ニヨルモノ	一	五	七	八	二一
ワイヤー、チェーン、フック等ニヨルモノ	一	二	一〇	七	二〇
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ挟マレシモノ	二	三	一〇	五	二〇

十三、第二中小形工場

原因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
ロール又ハ之ニ依リ加工中ノ物体ニヨルモノ	三三	三三	一五	二四	一〇四
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ	二二	一七	一五	一六	六〇
取扱中ノ物体ヨリ手ヲ仁ラシ又ハ取落シタルモノ	四	九	一〇	一一	三四
取扱中ノ物体他ノ物トトニ挟マレシモノ	七	八	九	五	二九
物体ノ取扱ヒニ無理シタルモノ(捻挫)	六	八	八	七	二九
十四、第一鉄力工場					
鋼板角ニ觸レタルモノ	五〇	六五	一八八	一二七	四二〇
物品取扱ヒニ無理シタルモノ(捻挫)	三六	七七	一一八	六五	二九六
腰キレリ倒レシニヨルモノ	三〇	二三	四四	二六	一二三
取扱中ノ物体ヨリ手ヲ仁ラシ又ハ取落シタルモノ	一三	一六	三三	二二	八三
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ挟マレシモノ	一〇	一四	二八	一九	七一

十五、第二中板工場

原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
鋼板角ニ觸レタルモノ		二		六	一五	二三
物体ノ取扱ヒニ無理シタルモノ(捻挫)		一	四	五	七	一七
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ		二	九	三	二	一六
ロール又ハ之ニヨリ加工中ノ物体ニヨルモノ		一	一〇	二	三	一六
躓キ亡リ倒レシニヨルモノ		二	二	四	八	一六
十六、鍛鋼、外輪工場						
原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
剪斷機、壓搾機又ハ之ニヨリ加工中ノ物体ニヨルモノ			三三	一六	三四	七二
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ		一四	七	三	一一	三六
物体ノ落下、仁落、飛來ニヨルモノ		八	五	二	一	一六
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ挟マレシモノ		六	一	六	三	一六
物体ノ取扱ヒニ無理シタルモノ(捻挫)		四	四	一	三	一二

十七、第四大形工場

原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
躓キ亡リ倒レシニヨルモノ		四	二	五	七	一八
ロール又ハ之ニ依リ加工中ノ物体ニヨルモノ		四	八	一	二	一五
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ挟マレシモノ		四	二	三	五	一四
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ				四	九	一三
取扱中ノ物体ヨリ手ヲ亡ラシ又ハ取落シタルモノ		一	一	三	八	一三
十八、第三厚板工場						
原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
躓キ亡リ倒レシニヨルモノ		三	三	九	六	二一
鋼板角ニ觸レタルモノ		二	四	五	五	一六
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ		二	四	二	七	一五
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ			二	三	四	九
ワイヤー、チェーン、フック等ニヨルモノ			三	三	三	九

十九、第二 鋼力工場

原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
鋼板角ニ觸レタルモノ		六三	六一	八六	九六	三〇六
物体取扱ヒニ無理シタルモノ(捻挫)		四一	五二	一〇四	七八	二七五
頭キリ倒レシニヨルモノ		二三	二九	二九	三九	一二〇
取扱中ノ物体ヨリ手ヲヒラシ又ハ取落シタルモノ		八	二二	二八	二二	八〇
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ		八	一七	一六	一七	五八
二十、高級珪素鋼板工場						
原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
鋼板角ニ觸レタルモノ			八	二七	四五	八〇
頭キリ倒レシニヨルモノ			二二	二四	二五	七〇
物体取扱ヒニ無理シタルモノ(捻挫)			七	一九	二二	四八
取扱中ノ物体ヨリ手ヲヒラシ又ハ取落シタルモノ			二三	一四	一三	四〇
ロール又ハ之ニ加工中ノ物体ニヨルモノ			一四	六	一六	三六

二十一、第一 分塊工場

原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
頭キリ倒レシニヨルモノ		一	一	一	二	五
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ			一	三		四
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ		二	一			三
電動機、壓搾機又ハ之ニヨリ加工中ノ物体ニヨルモノ		一		二	一	三
電氣ニヨルモノ		一		一	一	三
二十二、第二 分塊工場						
原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ			三	二	六	一一
頭キリ倒レシニヨルモノ			一	一	三	五
取扱中ノ物体ヨリ手ヲヒラシ又ハ取落シタルモノ			三		二	五
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ			二		三	五
異物誤ニ入ルモノ			一	一	二	四

二十三、第三、四、五分塊工場

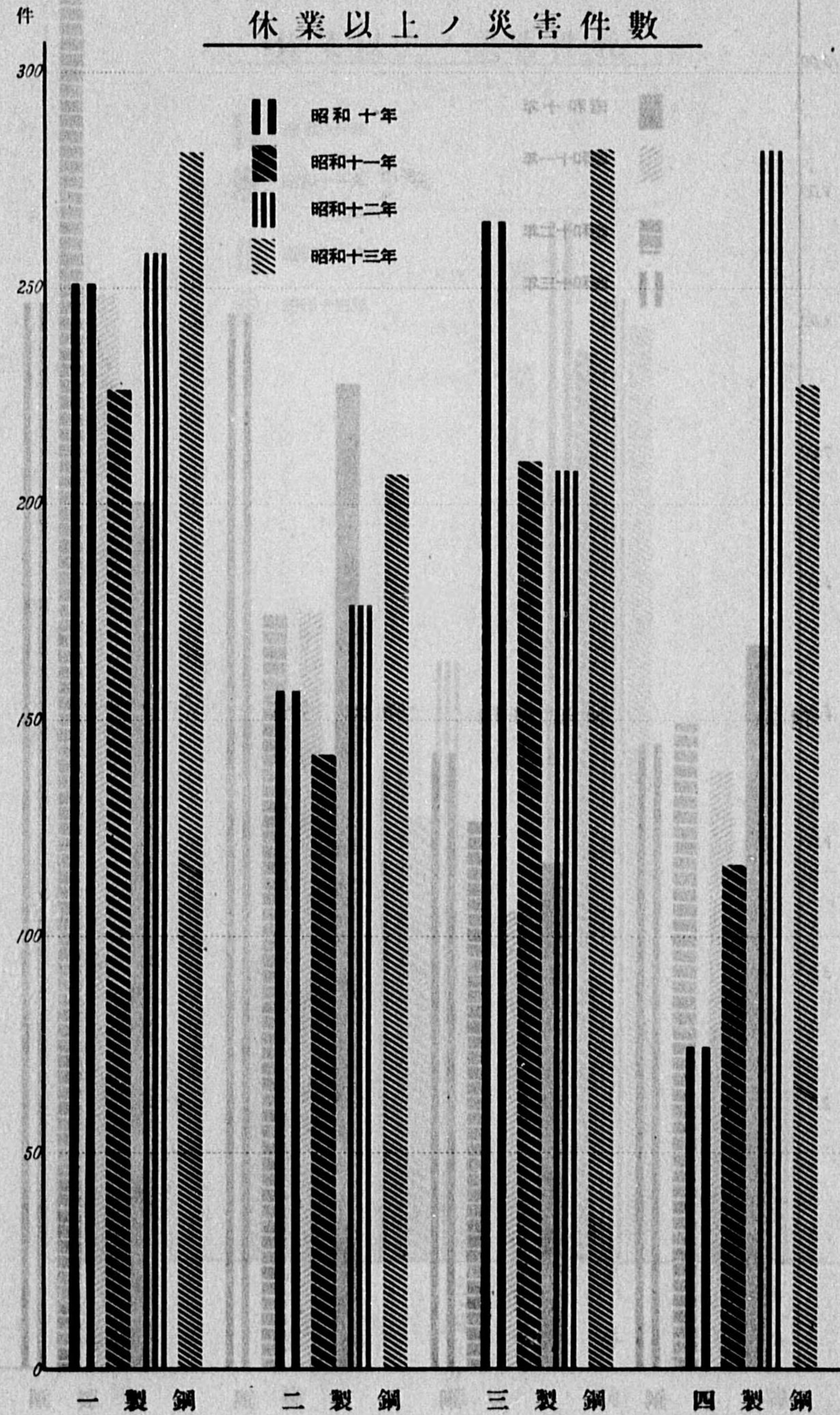
原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ		一	五	一	三	一〇
電氣ニヨルモノ		一	一	五	一	八
墮キ入り倒レシニヨルモノ		二	一	三	一	七
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ挾マレシモノ		一	三	一	二	七
ロール又ハ之ニ依リ加工中ノ物体ニヨルモノ		一	三	一		五
原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
起重機ニテ取扱中ノ物体ニヨルモノ		三	三	一	八	一五
墮キ入り倒レシニヨルモノ		五	四	二	三	一四
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ挾マレシモノ		三	三	五		一一
ワイヤー、チェーン、フック等ニヨルモノ		二	一	一	五	九
取扱中ノ物体ヨリ手ヲヒラシ又ハ取落シタルモノ		三		五		八

二十五、第七分塊工場

原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
ワイヤー、チェーン、フック等ニヨルモノ		一			四	五
物体ノ落下、沈落、飛來ニヨルモノ		三		二		五
墮キ入り倒レシニヨルモノ		二	一			三
起重機ヨリ取扱中ノ物体ニヨルモノ			一	一	一	三
飛降り飛越へ踏ミダミタルモノ		二	一			三
二十六、鋼片工場						
原	因	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	計
起重機ニヨリ取扱中ノ物体ニヨルモノ		一三	一六	一五	二六	七〇
取扱中ノ物体ヨリ手ヲヒラシ又ハ取落シタルモノ		四	一一	九	九	三三
自己又ハ他人使用中ノ工具ニヨルモノ		一	八	一一	八	二八
取扱中ノ物体ト他ノモノトニ挾マレシモノ		八	三	八	六	二五
ワイヤー、チェーン、フック等ニヨルモノ		三	三	七	一一	二五

第八表

休業以上ノ災害件數

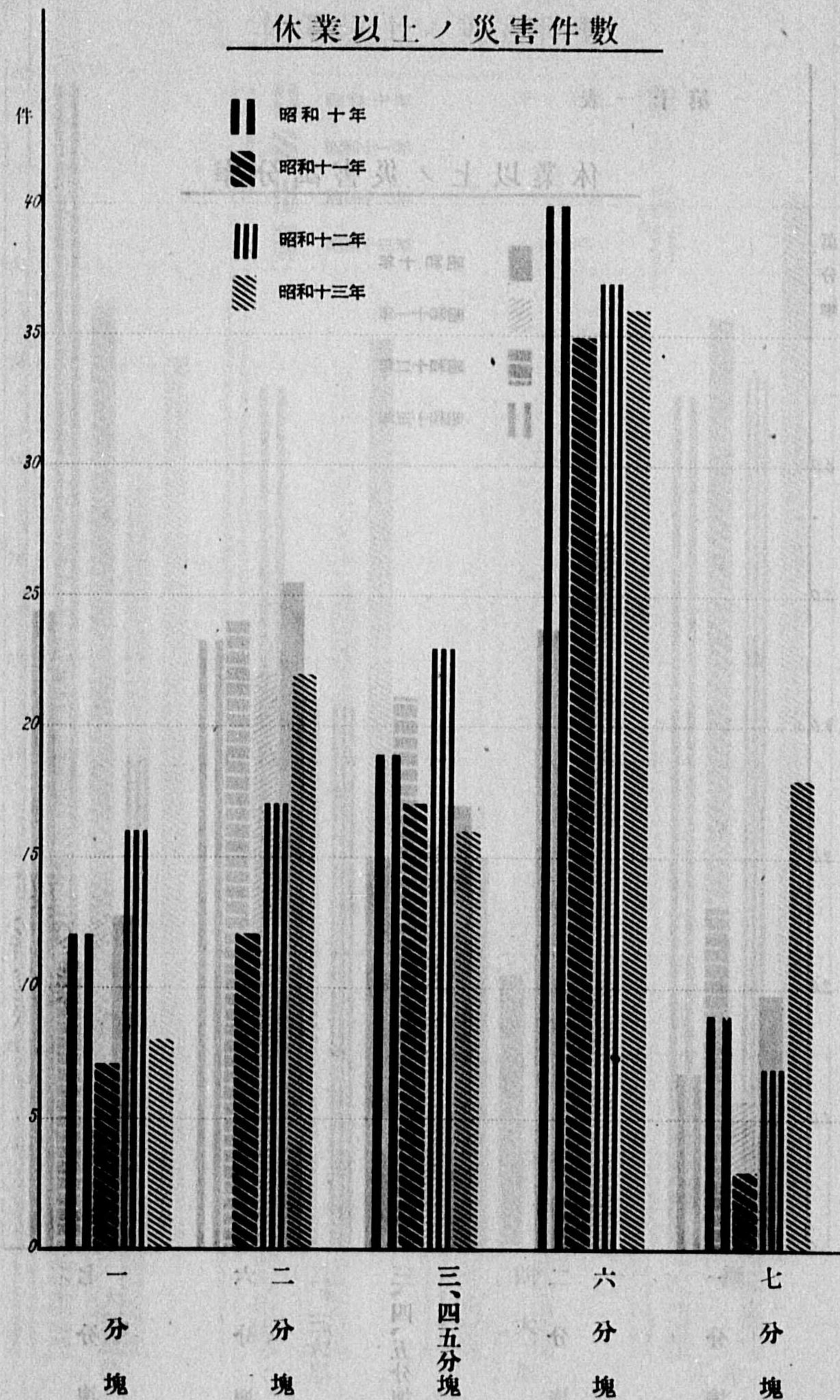


(八) 工場別災害件數ト万分率(休業以上)

災害件數ニ於テ第一級力、第二級力、各製鋼工場及高級珪素等が目立テイルノハ従業員數が多イダケニ止ムヲ得ナイカモ知レヌ、率デハ三中心形ノ一七、七ヲ筆頭ニ一級力、二級力、四大形、二厚板、四製鋼、線材等ガ何レモ万分率デ一〇ヲ突破シテイルノハ如何
工場自體ニ付テイルニ相當ノ上下起伏ガアルガ其顯著ナ場合ノ裡ニハ必ず設備ノ擴張ヤ交代増加等ニヨル未熟練工ノ大量増員ガ伴ツテイル、同種ニ新規ニ作業開始シタ場合モ同ジ傾向ガ認めラレルコトハ實績ガ示唆スル貴重ナ教材デアリ路標デアルトシテ見逃シテナラヌコト、思フ。

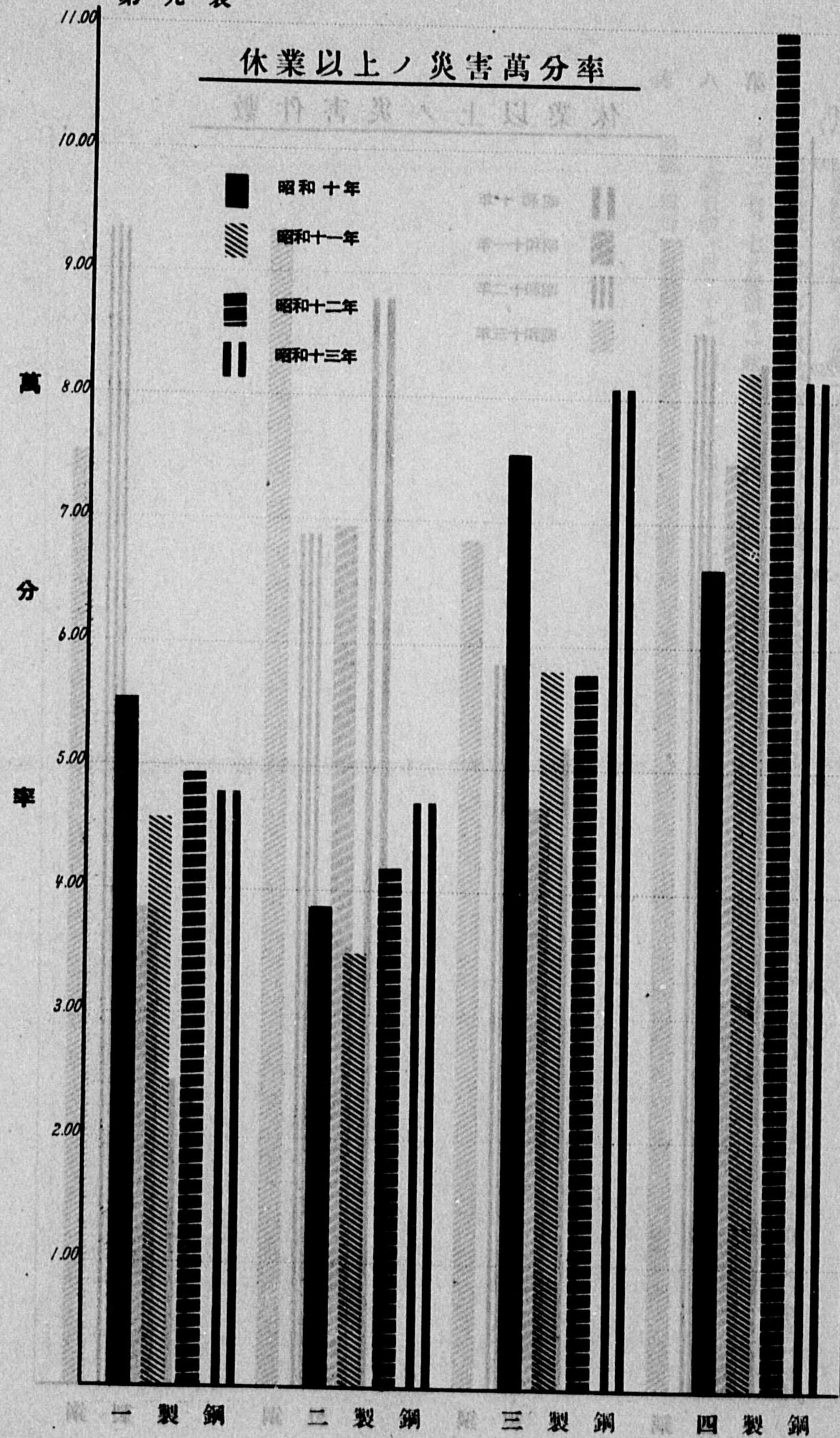
第十表

休業以上ノ災害件數



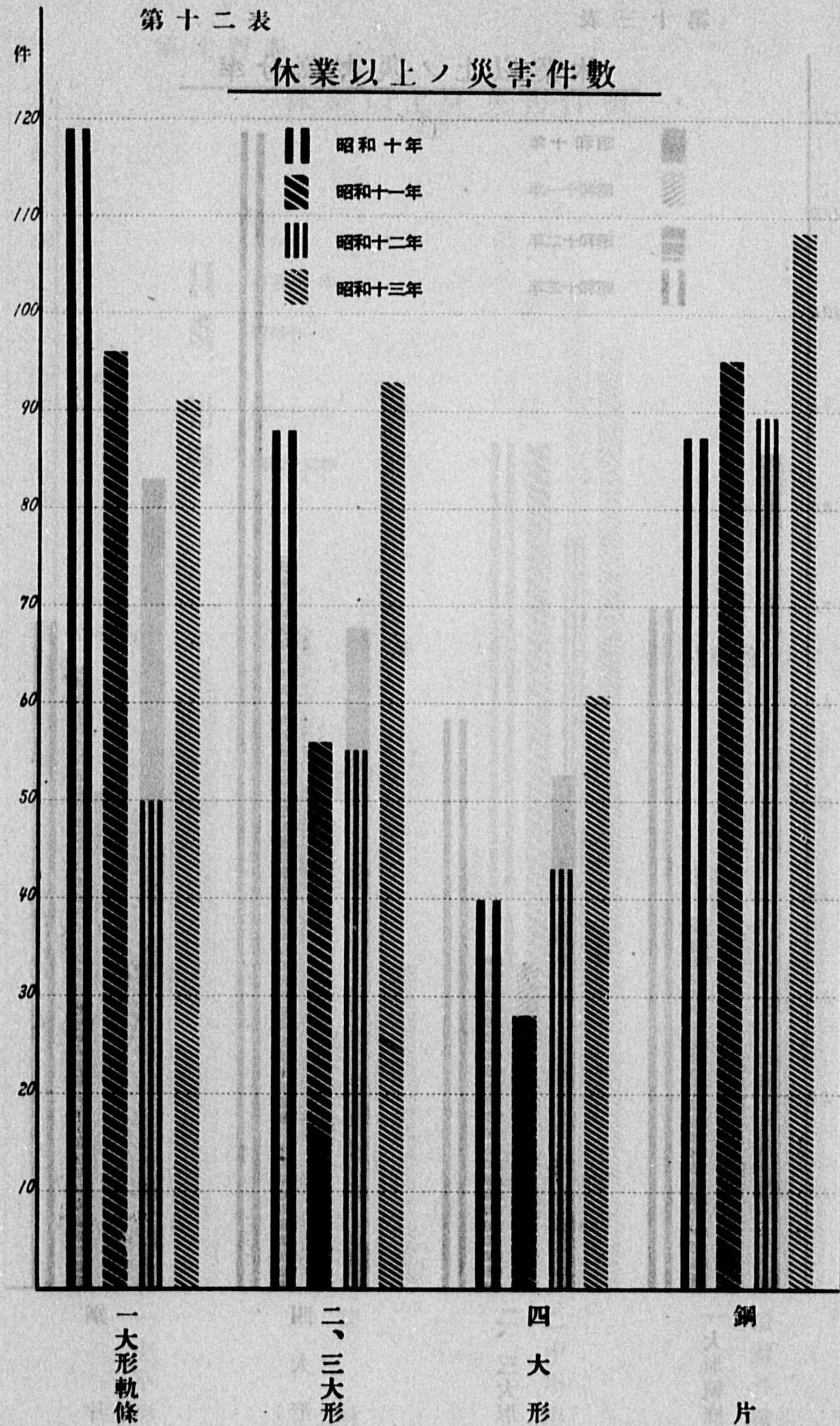
第九表

休業以上ノ災害萬分率



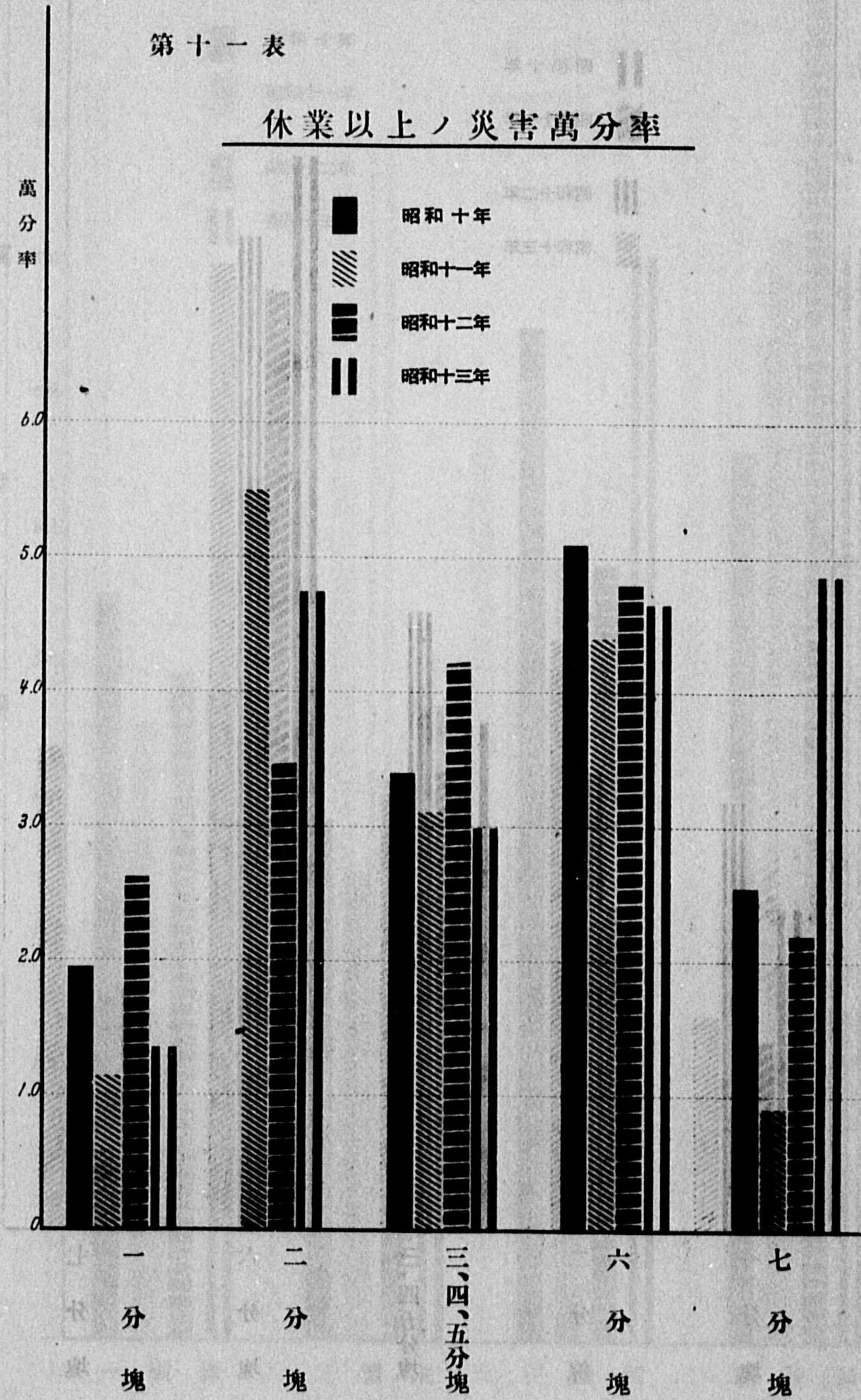
第十二表

休業以上ノ災害件數



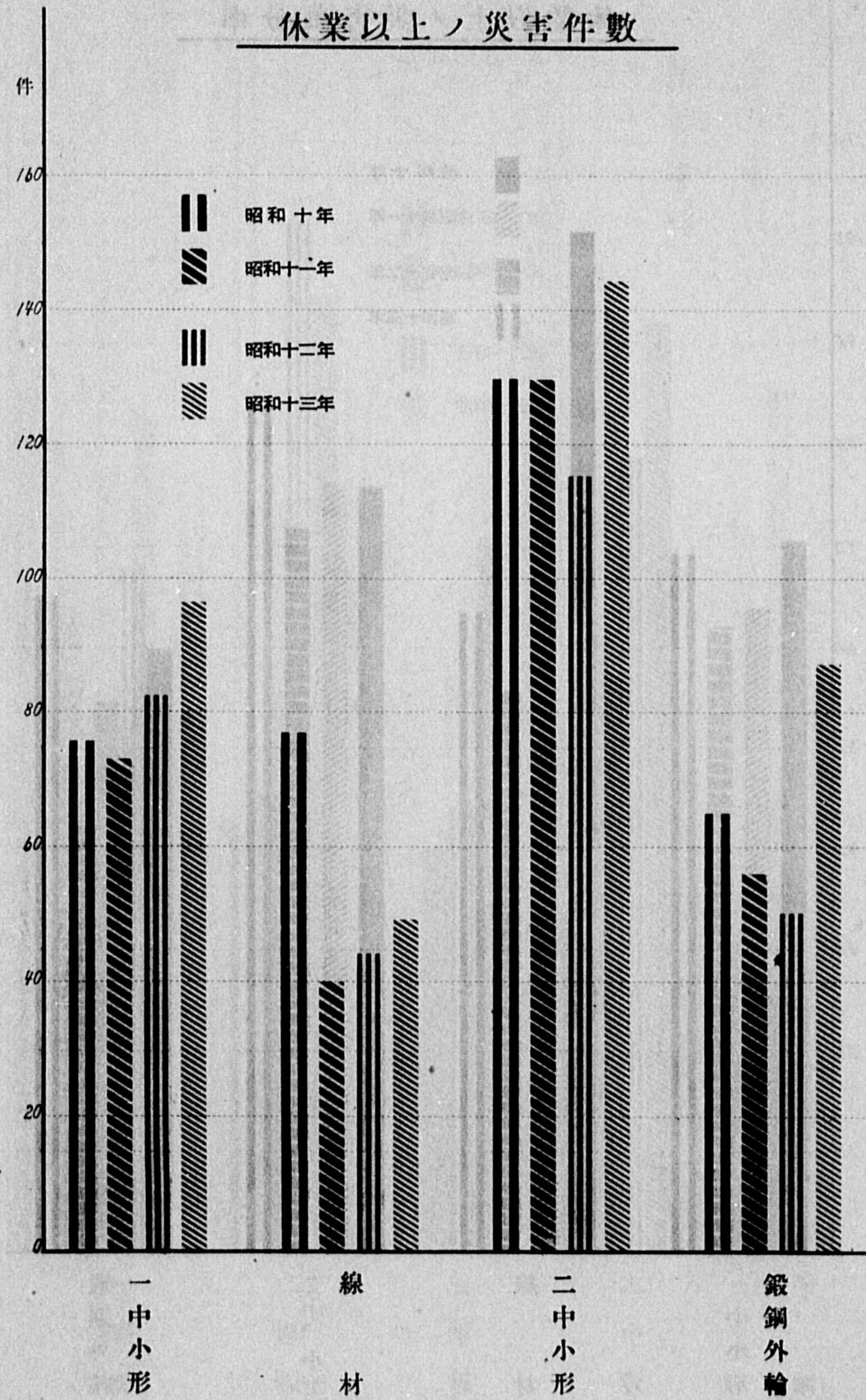
第十一表

休業以上ノ災害萬分率



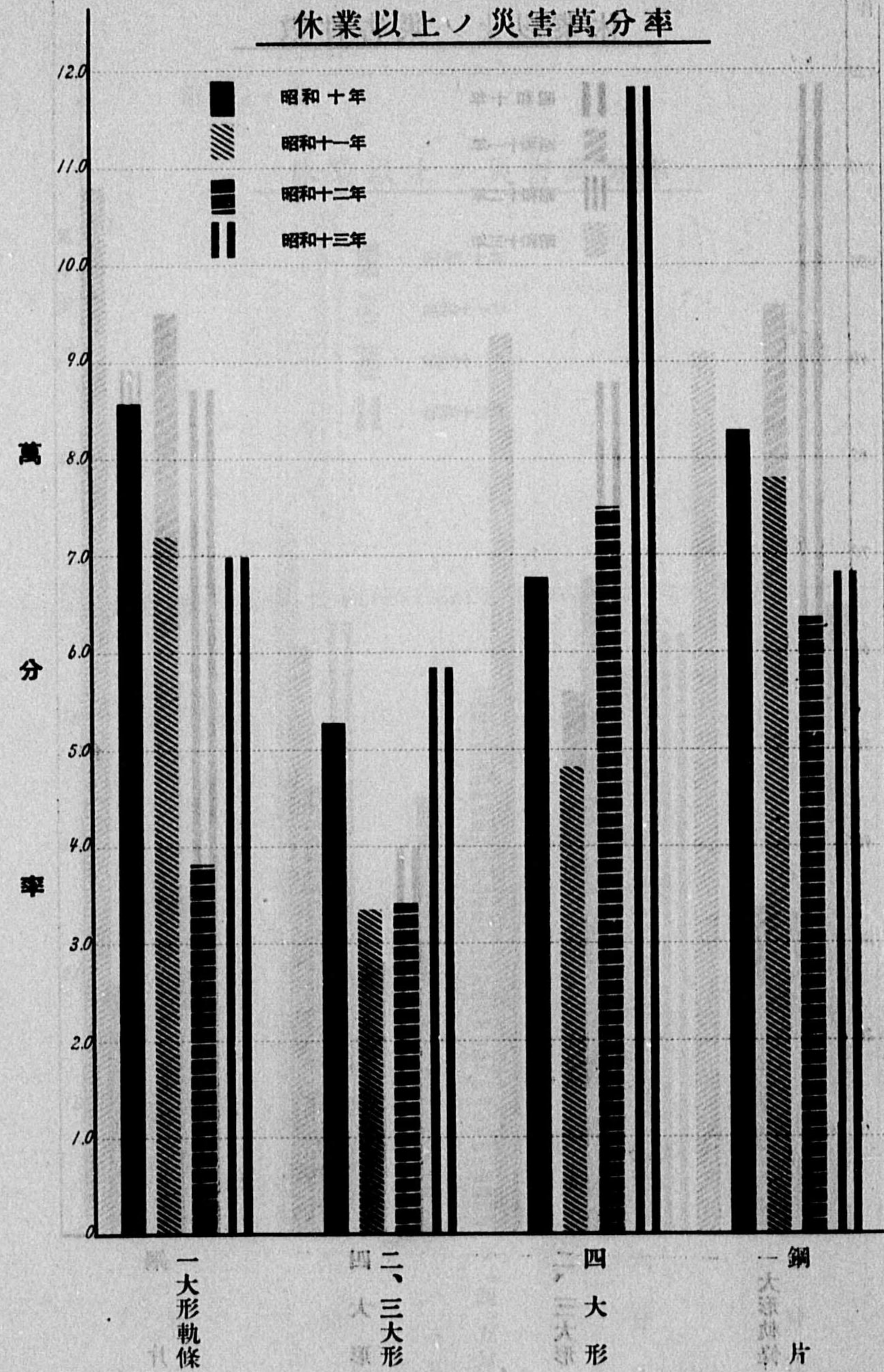
第十四表

休業以上ノ災害件數



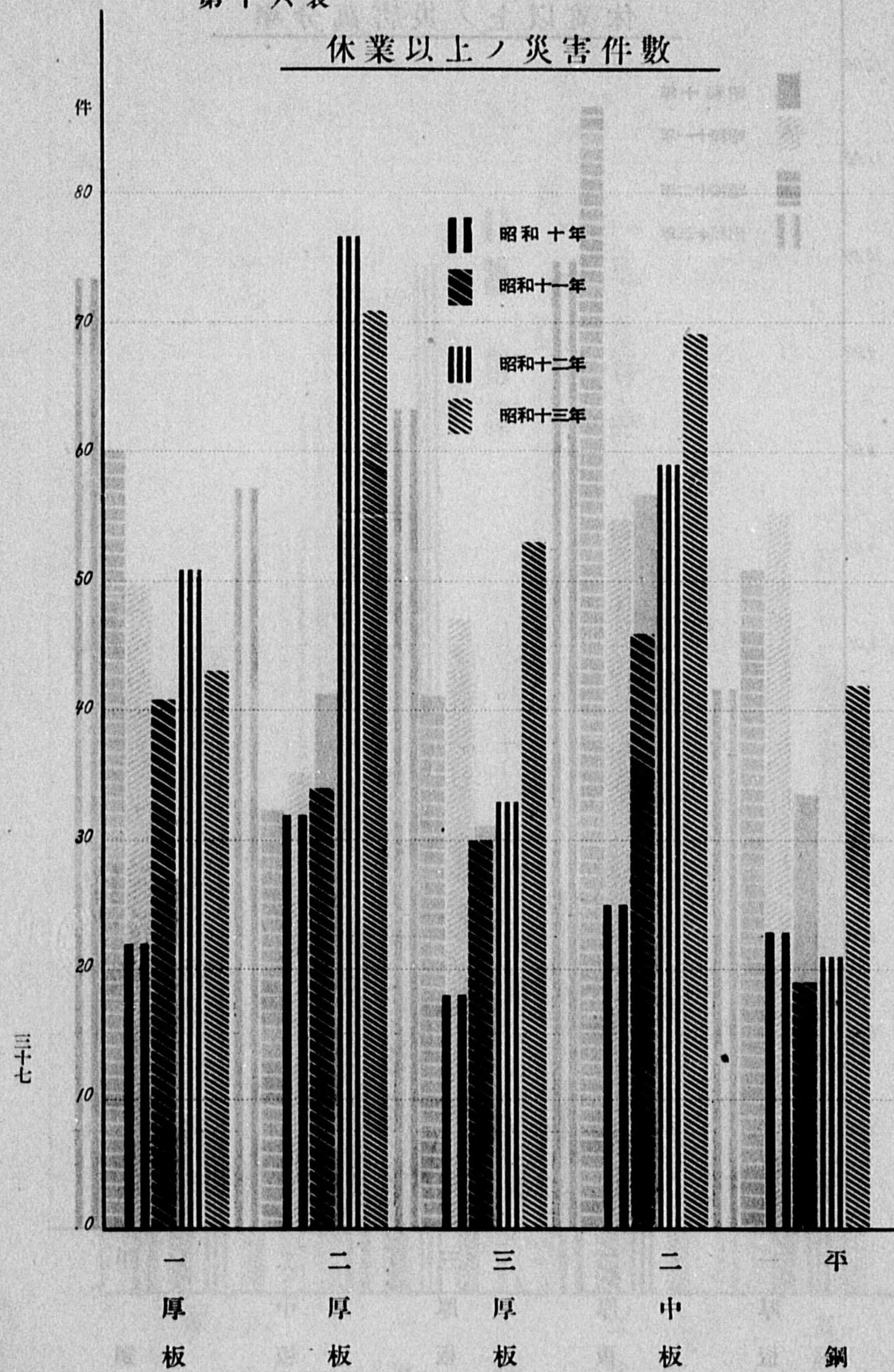
第十三表

休業以上ノ災害萬分率



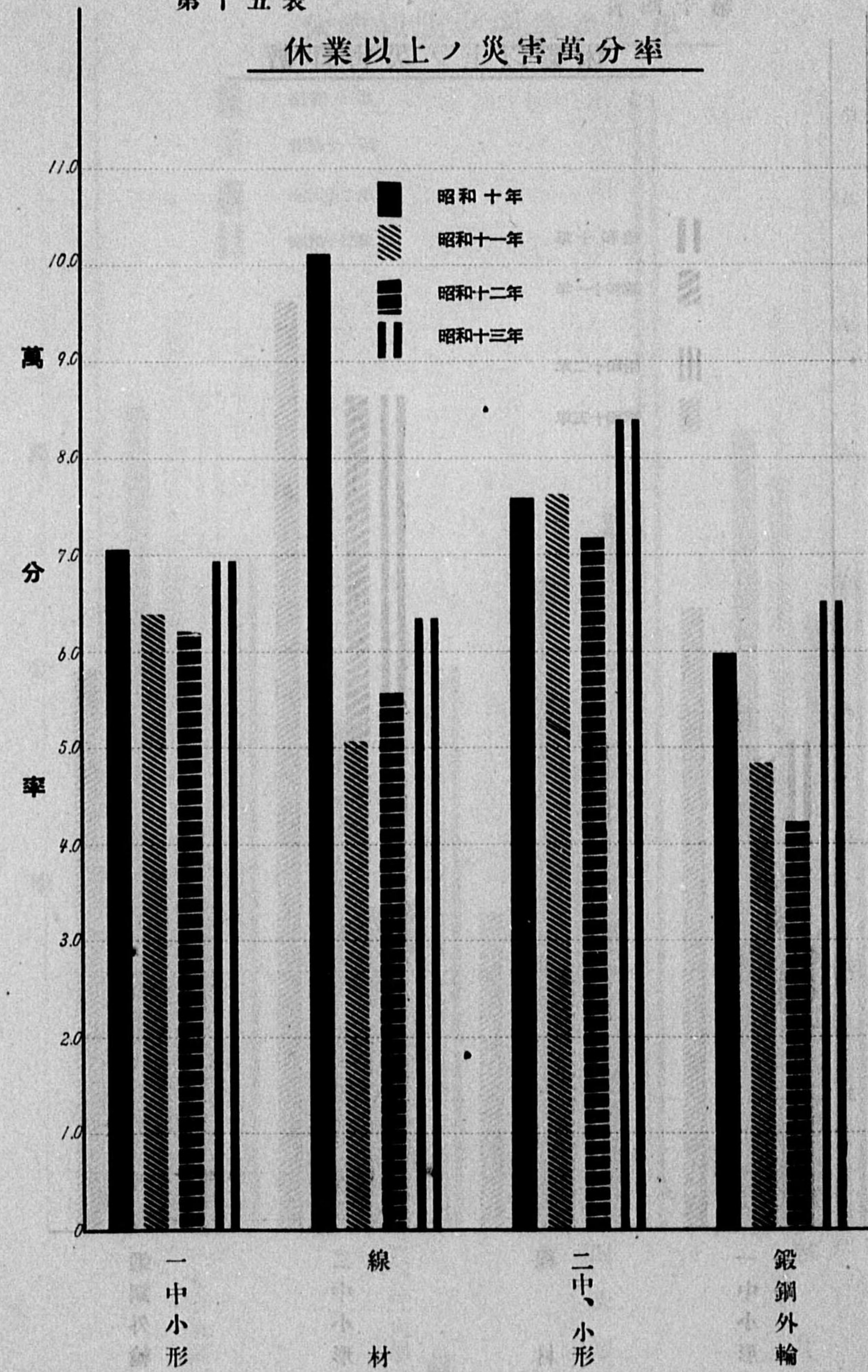
第十六表

休業以上ノ災害件數



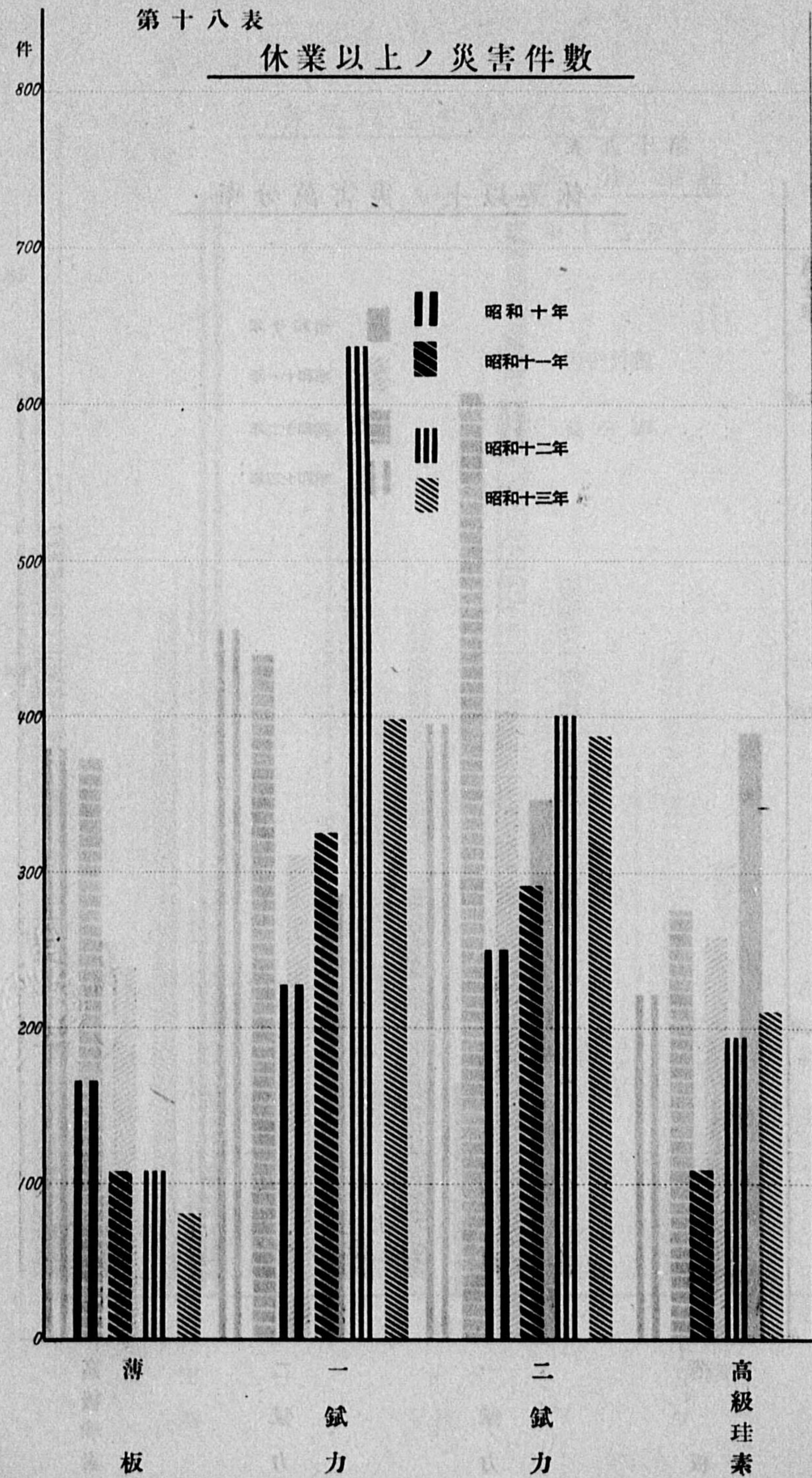
第十五表

休業以上ノ災害萬分率



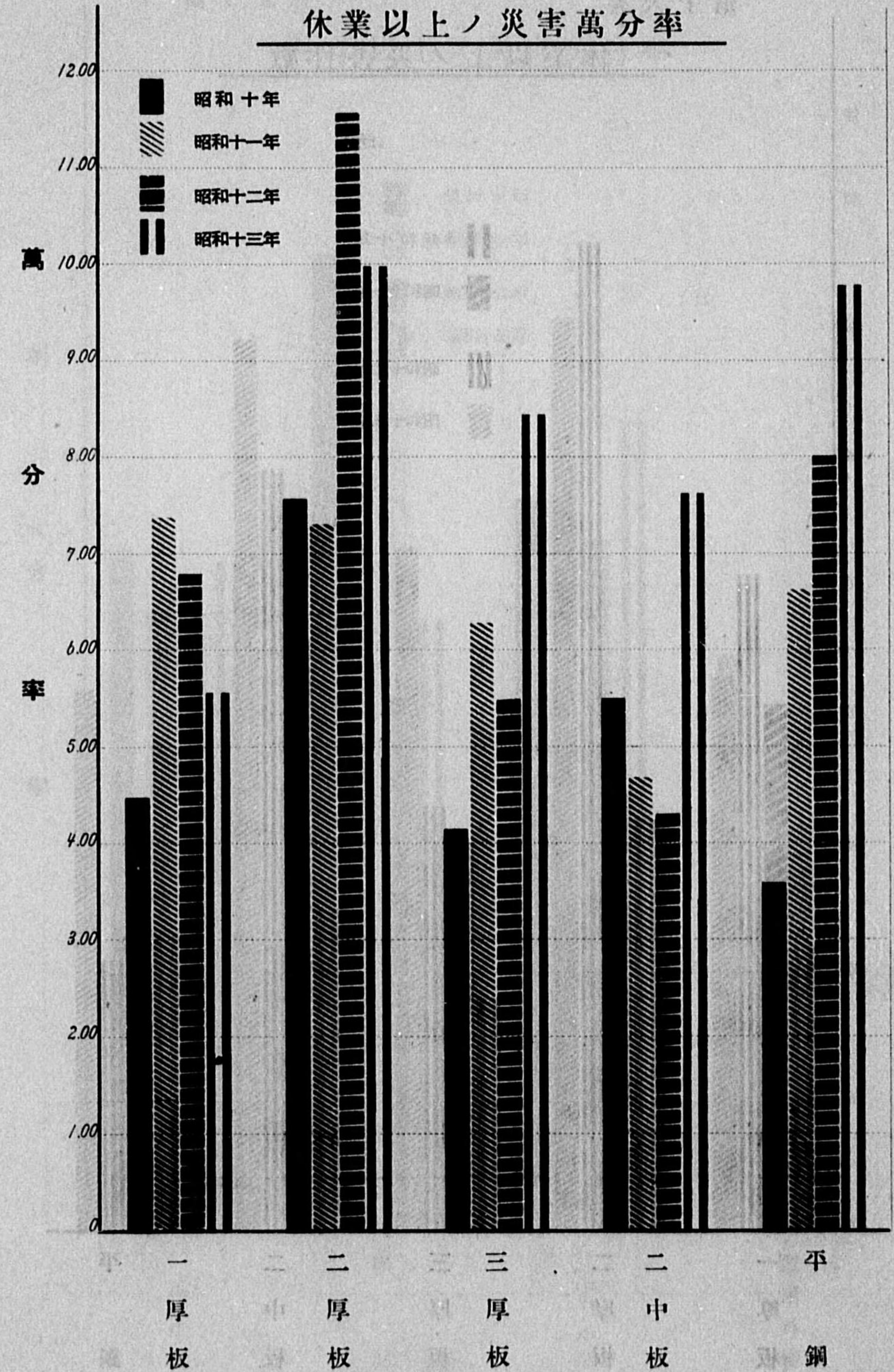
第十八表

休業以上ノ災害件數



第十七表

休業以上ノ災害萬分率

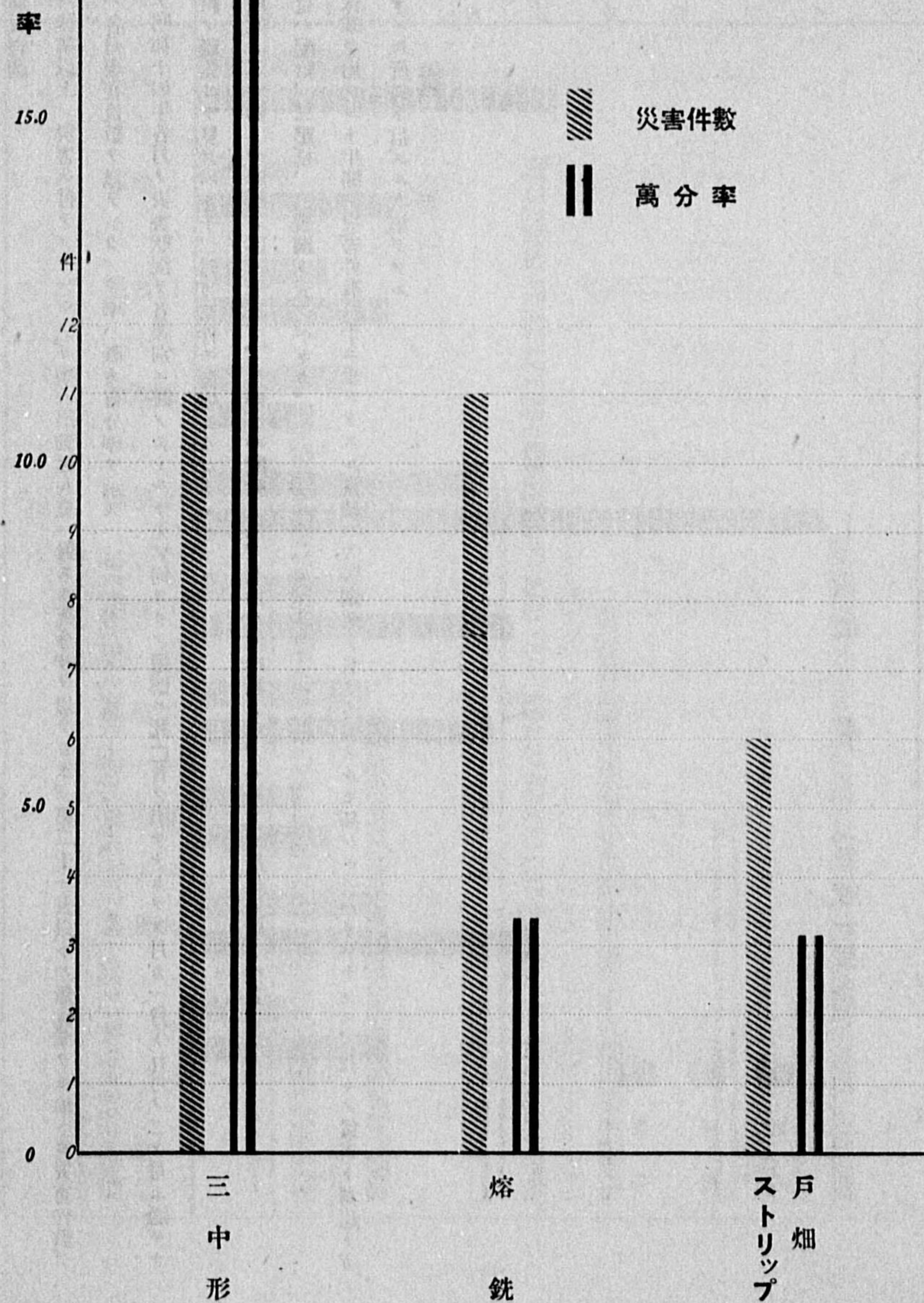


第二十表

休業以上ノ災害件數

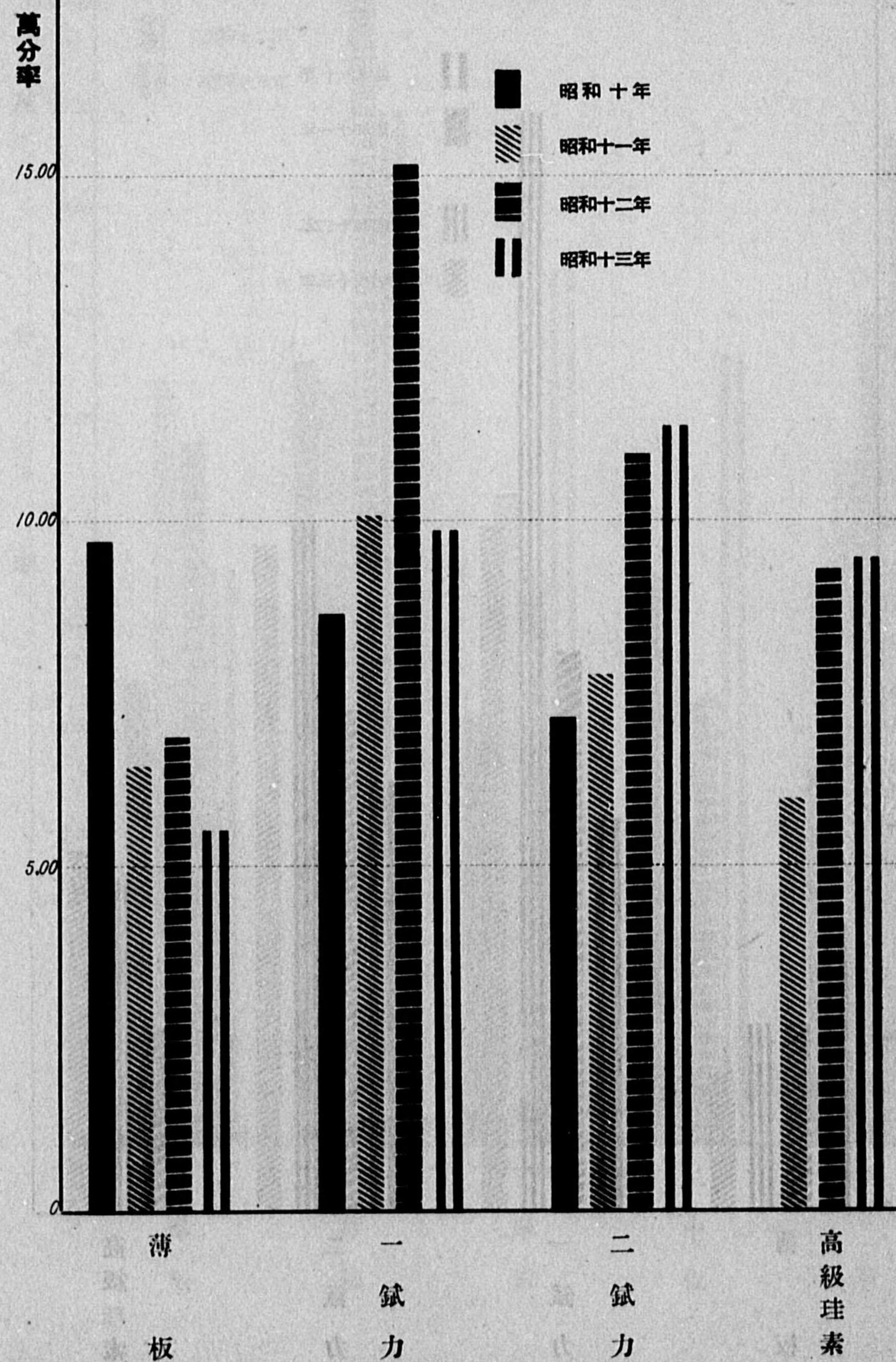
並 萬 分 率

(昭和十三年)



第十九表

休業以上ノ災害萬分率

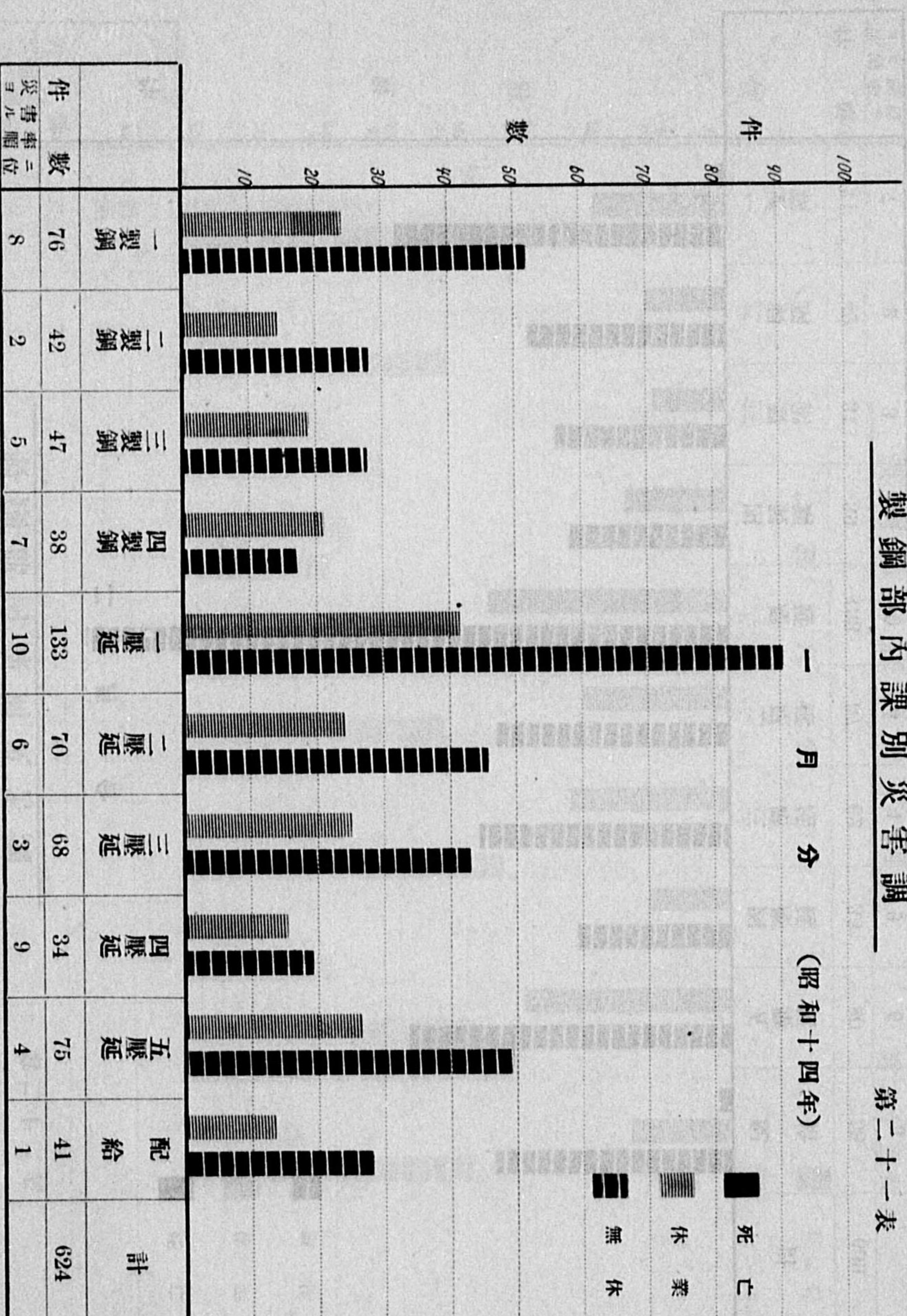


(九) 製鋼部内課別災害調

之迄ノ各表ハ休業以上ノ災害ニ付テノモノデアリ率ハ出勤延人員ニ對スル萬分率ヲ以テシタ、第二十一表以下ハ無休業ヲモ加ヘタ災害件數デ且ツ勞務者ハ各月現在員數ヲ以テシタノデ率ハ概ネ百分率ヲ示ス
 即之ニヨツテ昭和十四年各月ノ災害狀況ヲ各課別ニ眺メテミルト先ヅ何ヨリノ遺憾ハ死亡者ヲ出サナカッタ月ガ一月ト九月ノ二ヶ月ニ過ギナイコ、ト最終ノ頑張りヲ見スベキ十二月ガ三件モ發生シタコト、デアアル。
 件數デハ四壓延ノ二十四ト一壓延ノ百三十三ガ、又率デハ配給ノ二、七四ト四壓延ノ八、一一トガ最高最低ノ代表デアアル。
 總括的ナ順位ハ配給、三壓延、二製鋼ト云フベキカ。
 兎モ角モ無休業ヲ加フルト年間ノ災害件數八千ニ垂ントスル實績ハ大製鋼部ノ名ヲ汚辱スルモ甚シト云ハネバナラヌ、我々ノ猛省ト奮起トガ絶體ニ要求サル所以ト信ズル次第デアアル

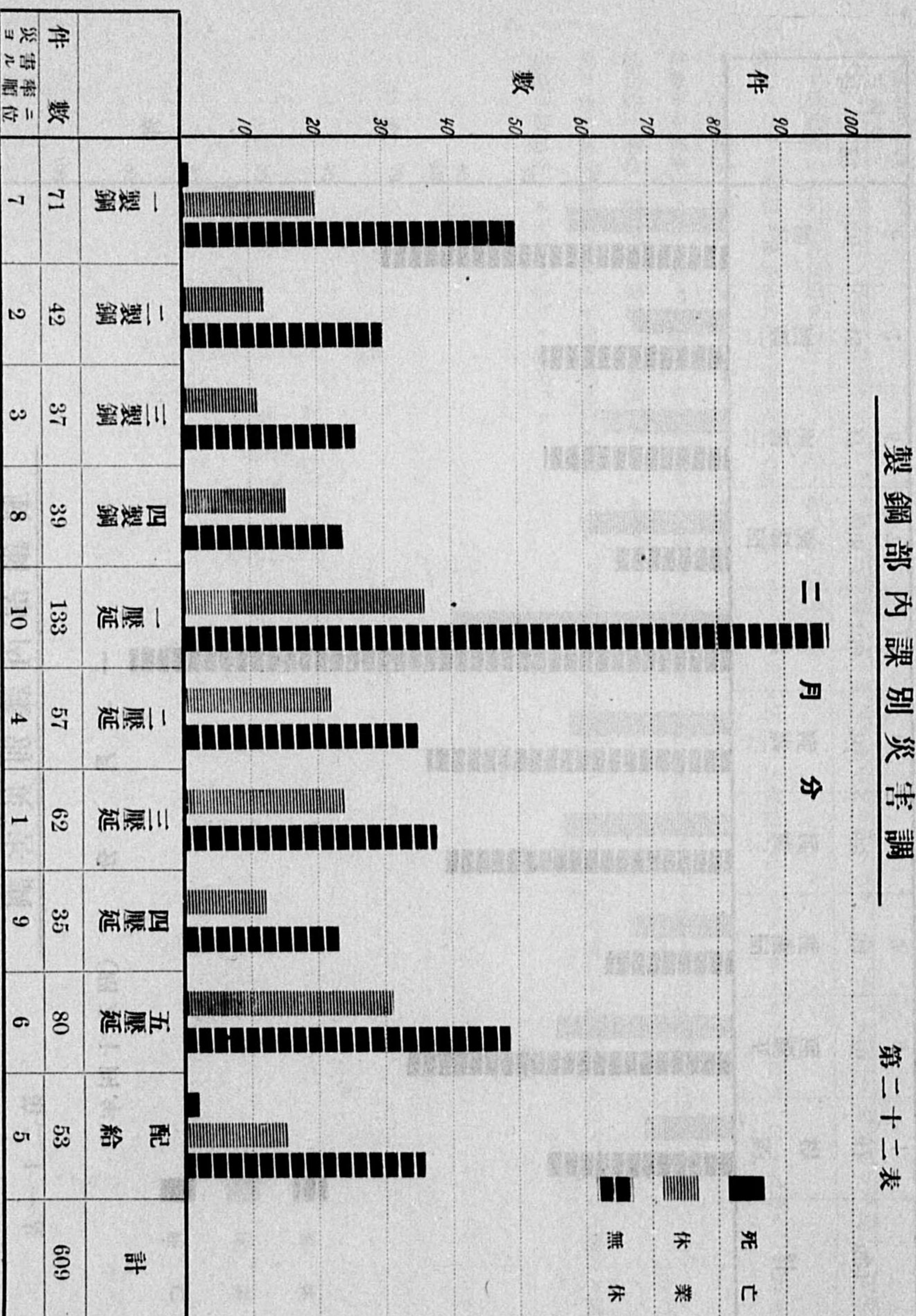
製鋼部内課別災害調

第二十一表



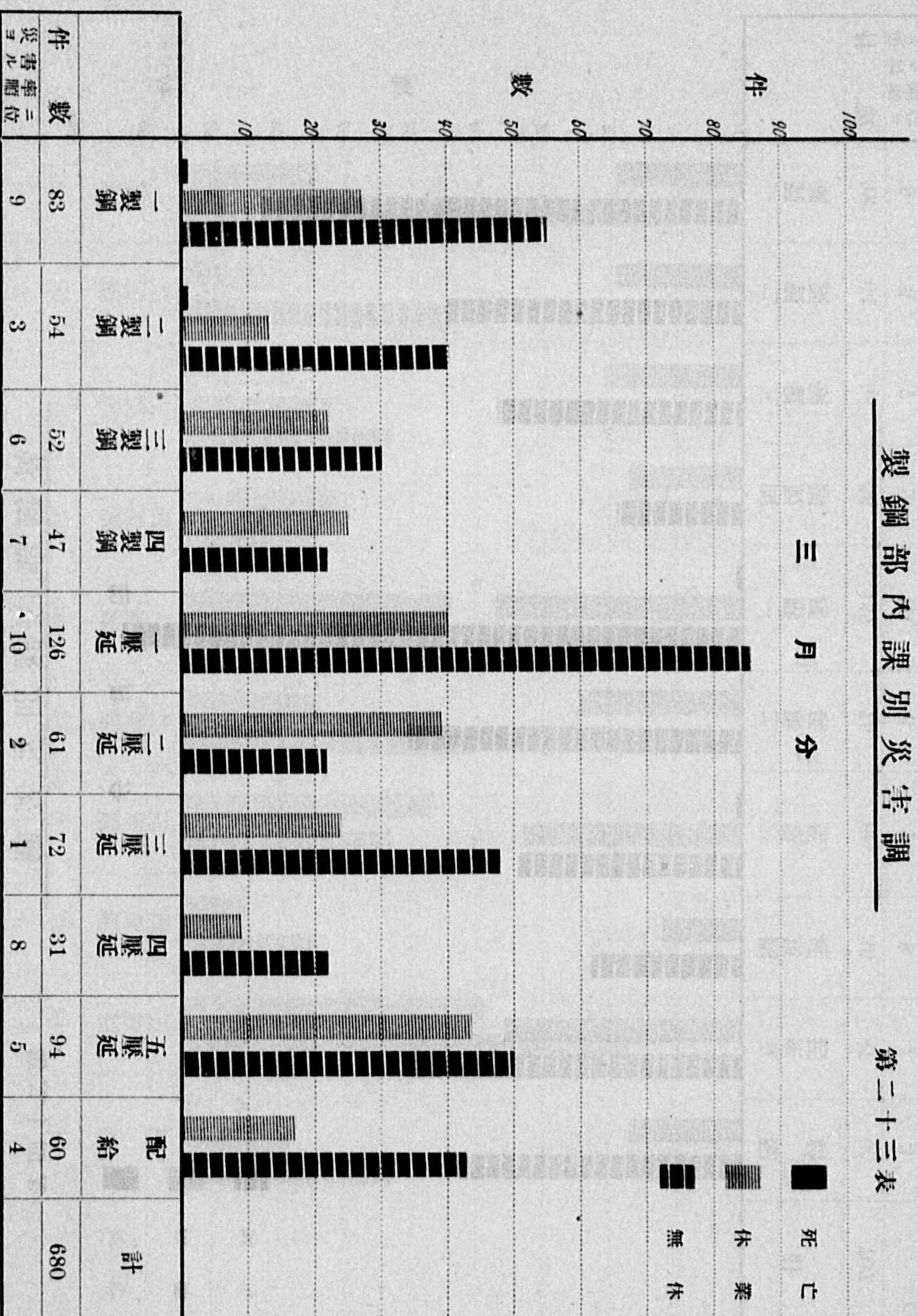
製鋼部内課別災害調

第二十二表



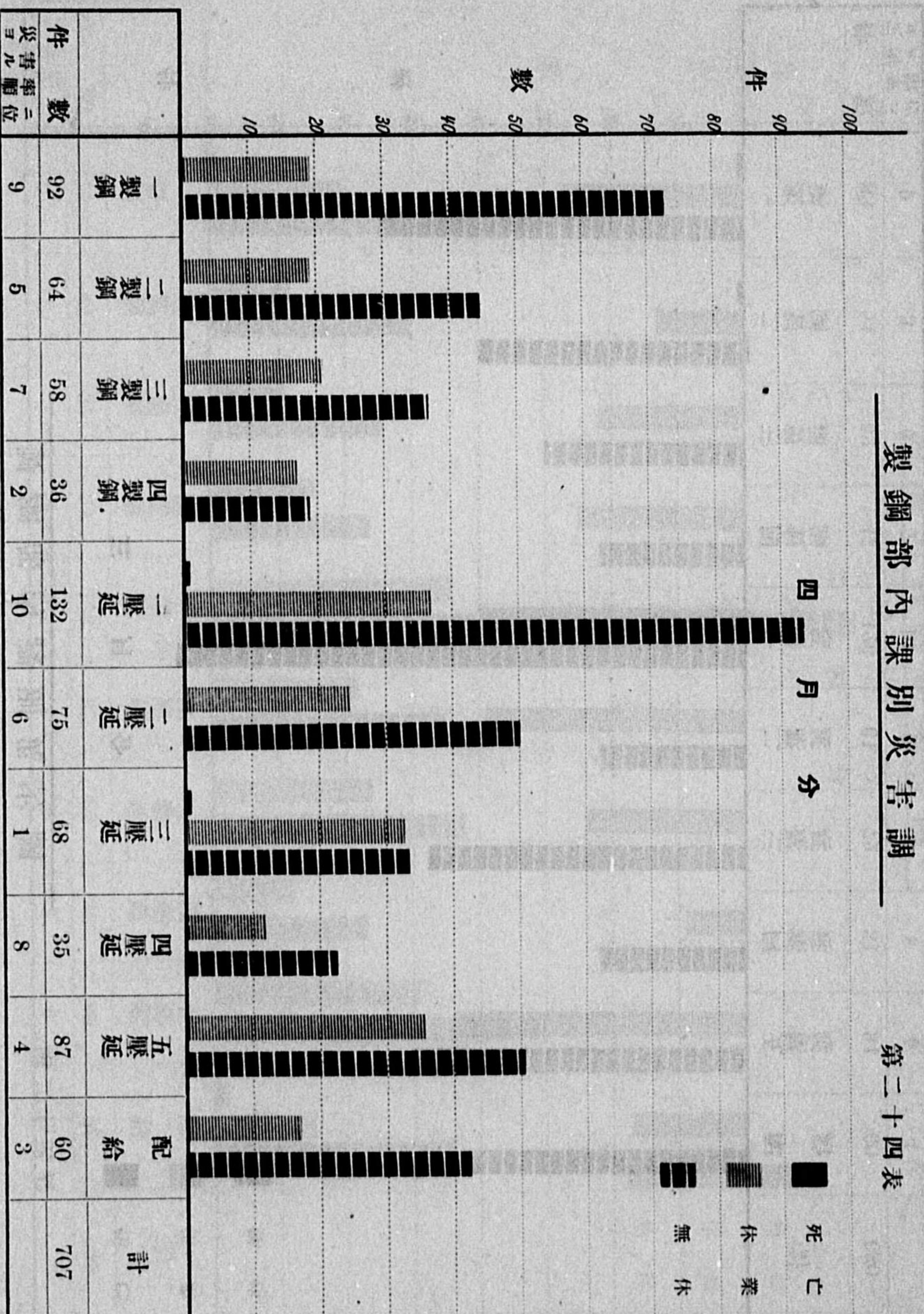
製鋼部内課別災害調

第二十三表



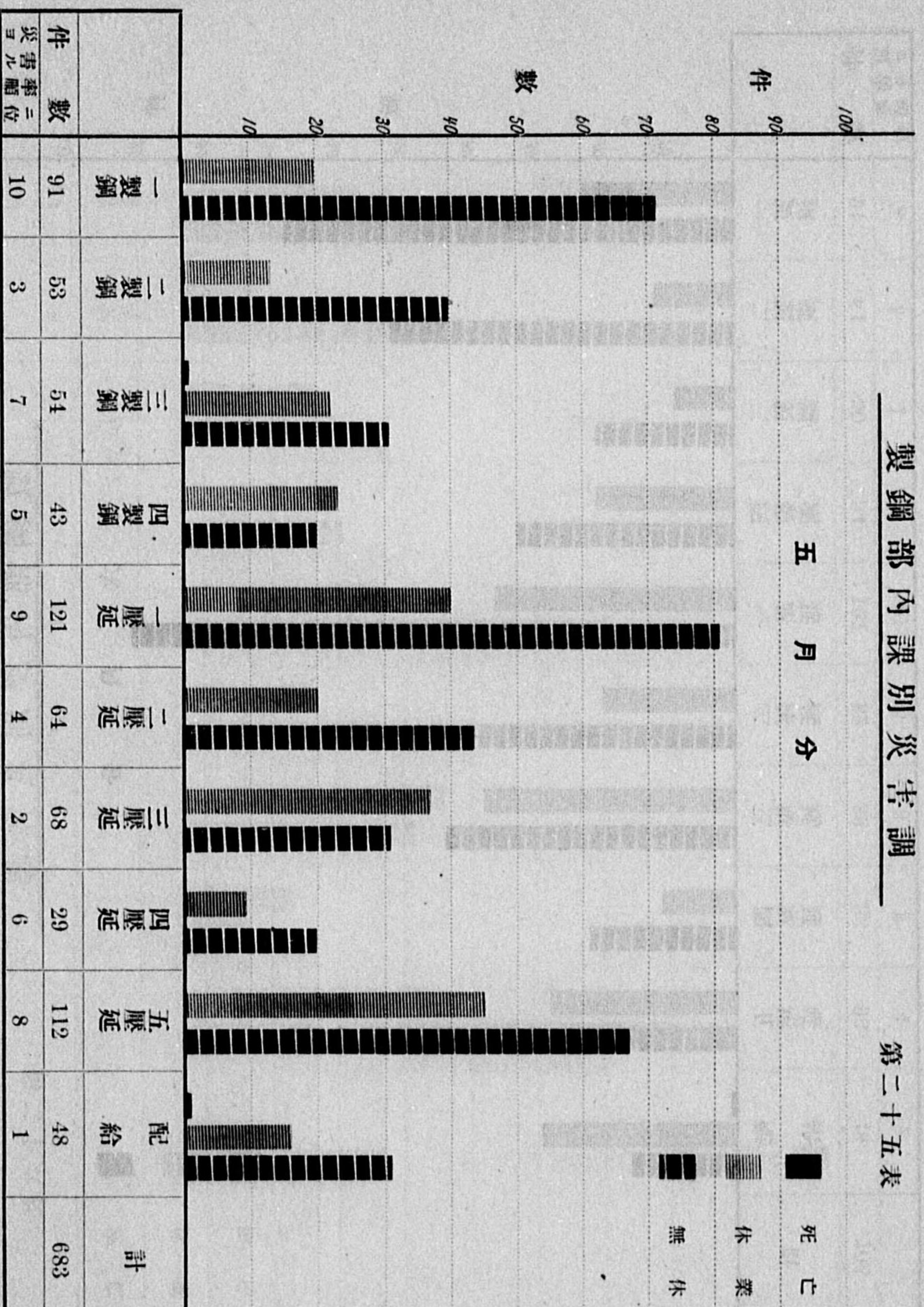
製鋼部内課別災害調

第二十四表



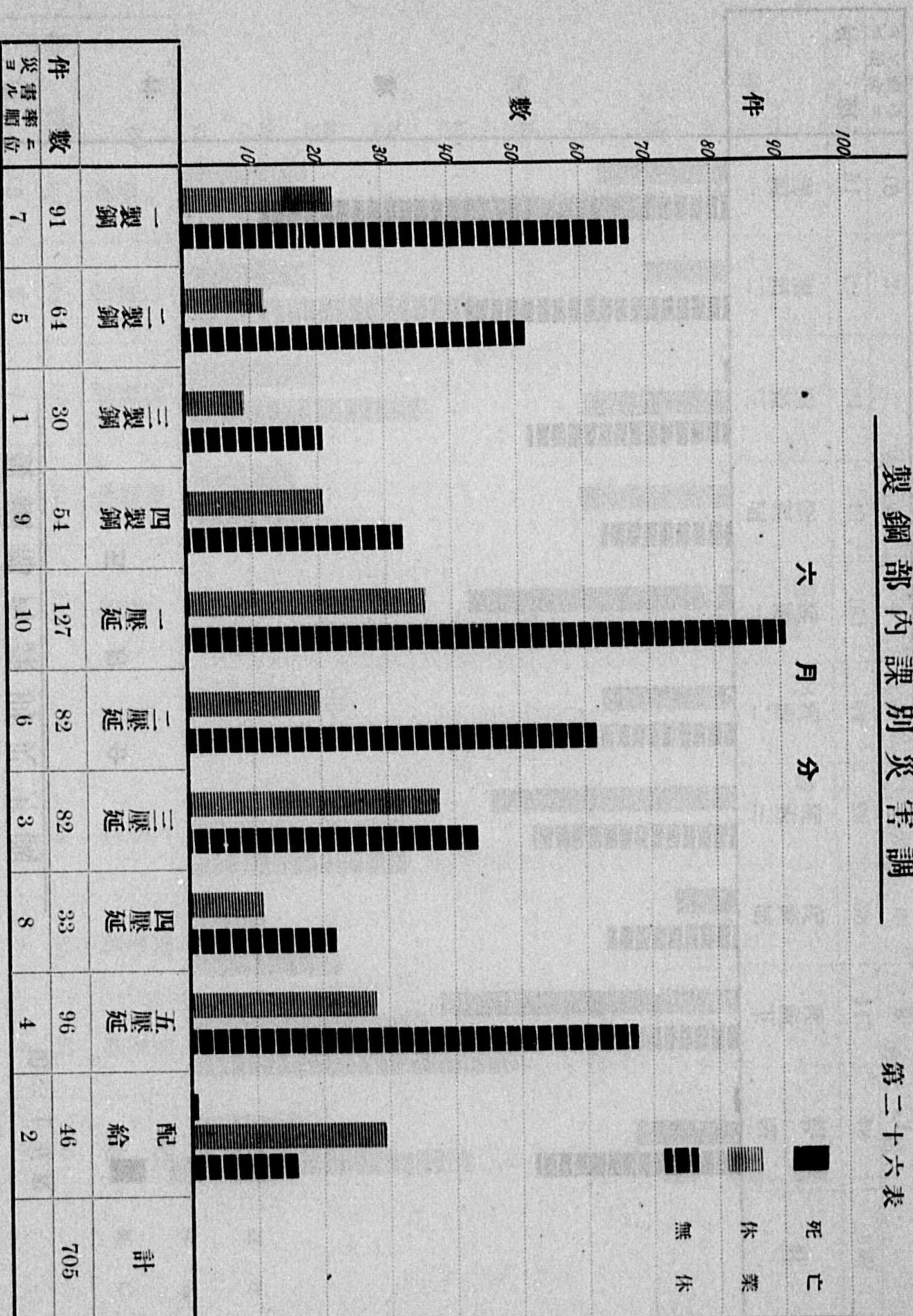
製鋼部内課別災害調

第二十五表



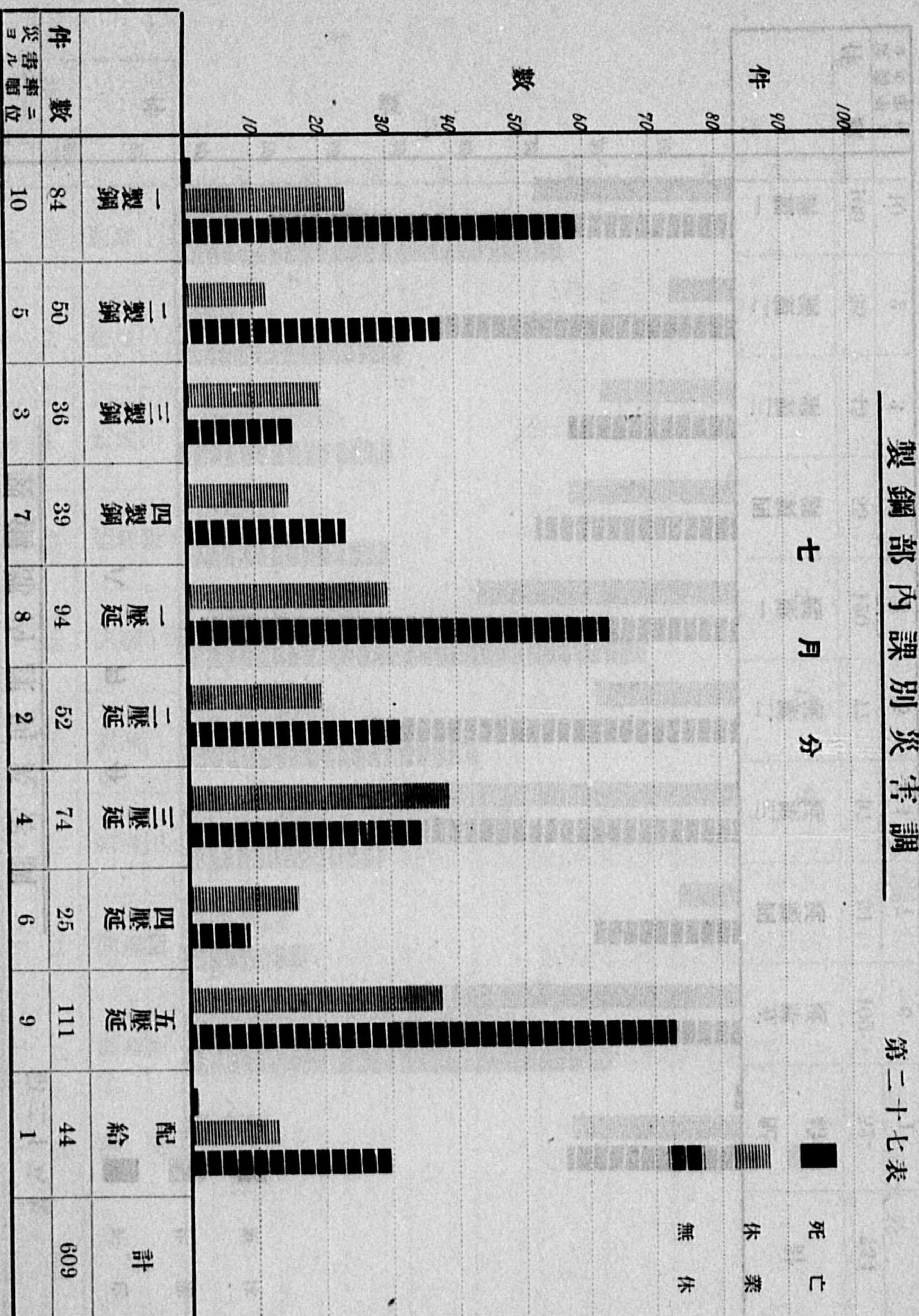
製鋼部内課別災害調

第二十六表



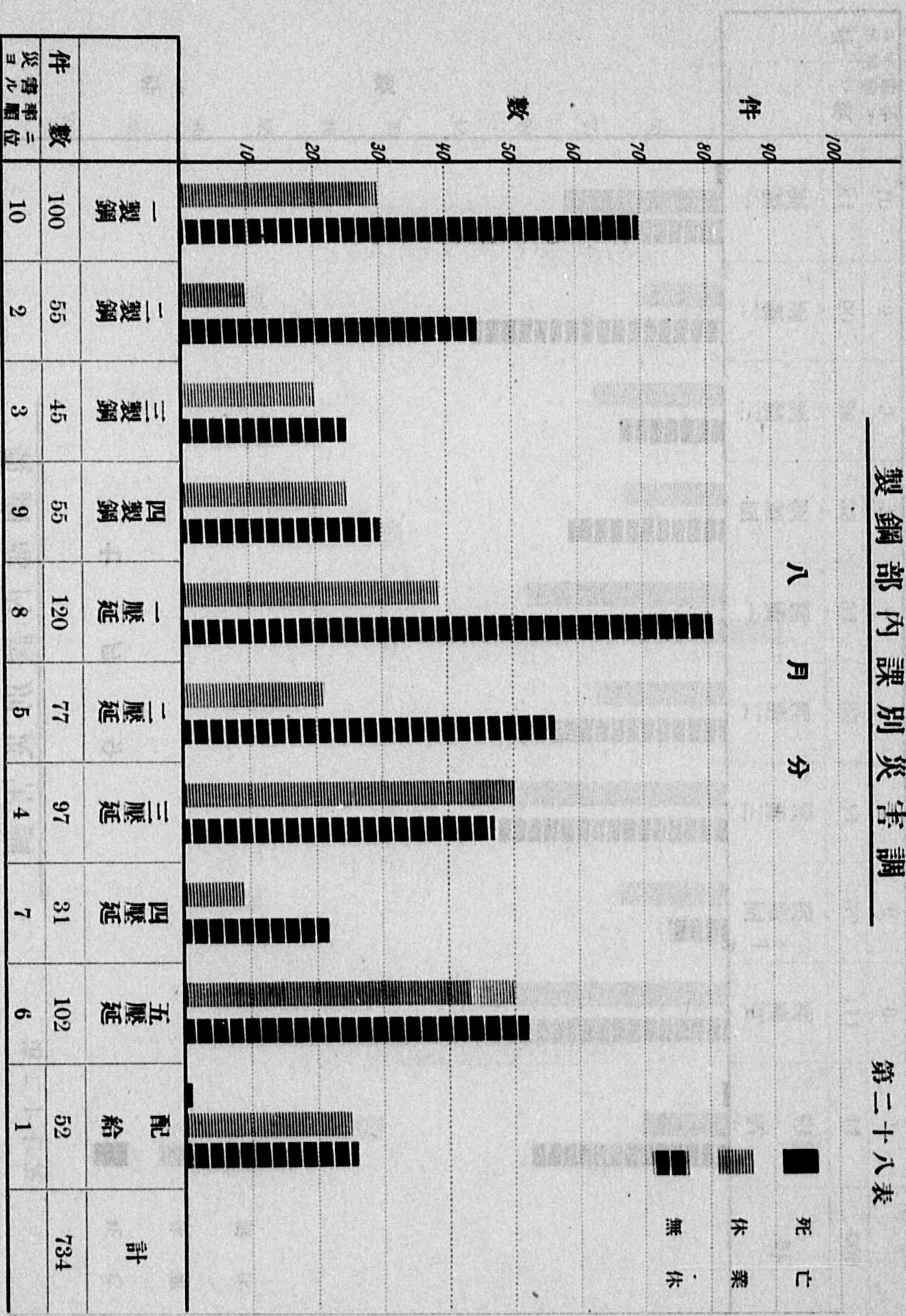
製鋼部内課別災害調

第二十七表



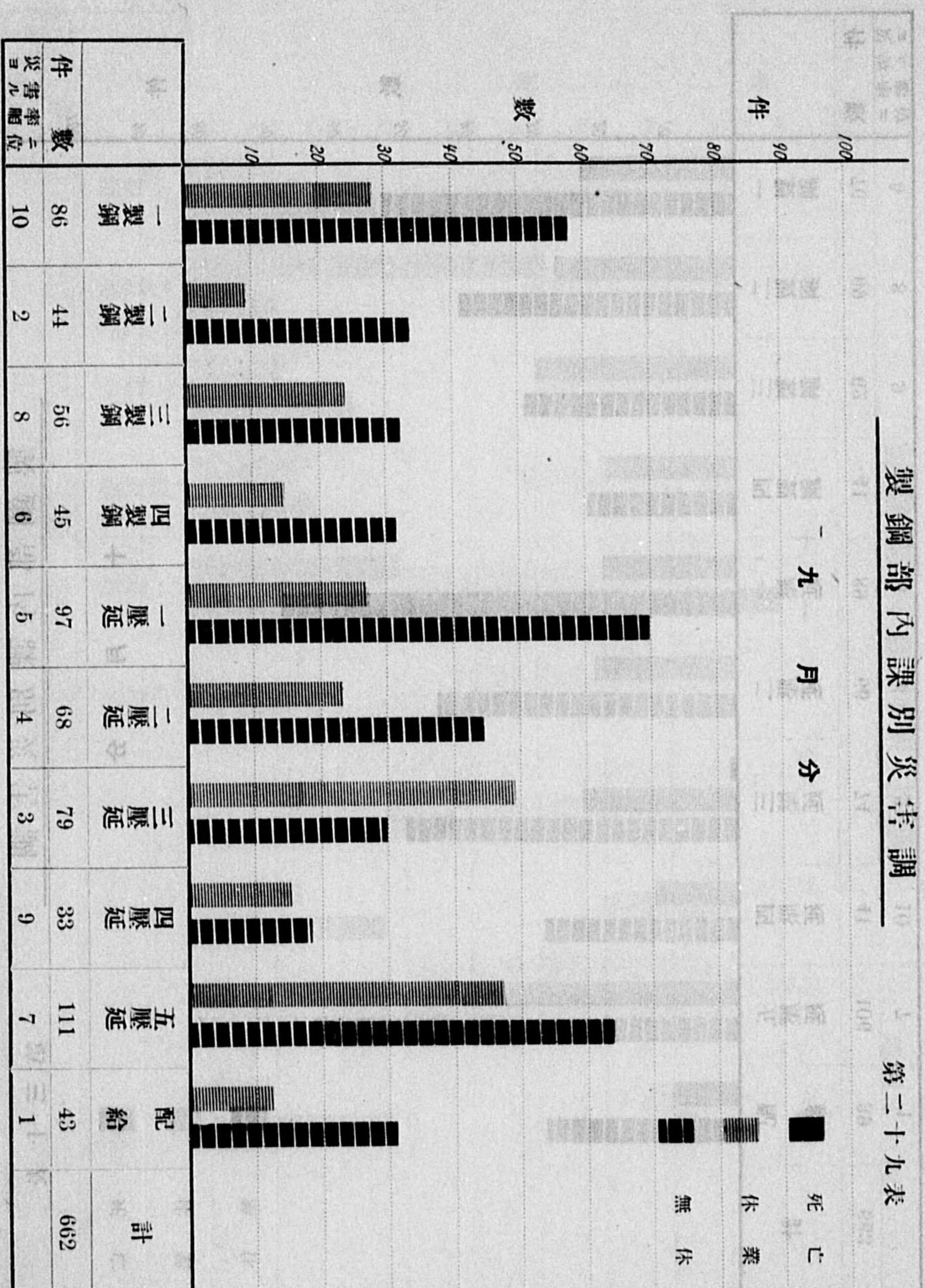
製鋼部内課別災害調

第二十八表



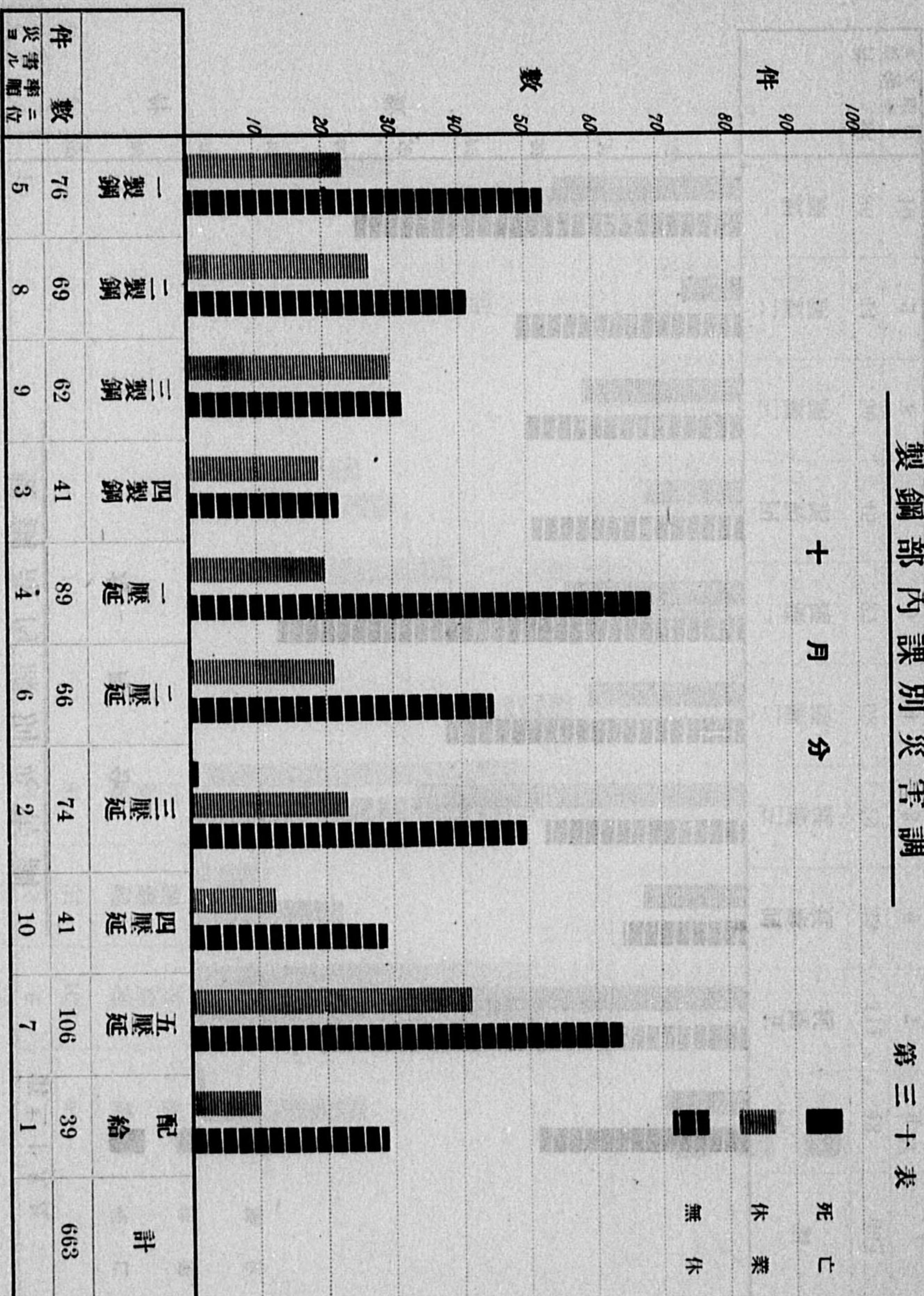
製鋼部内課別災害調

第二十九表



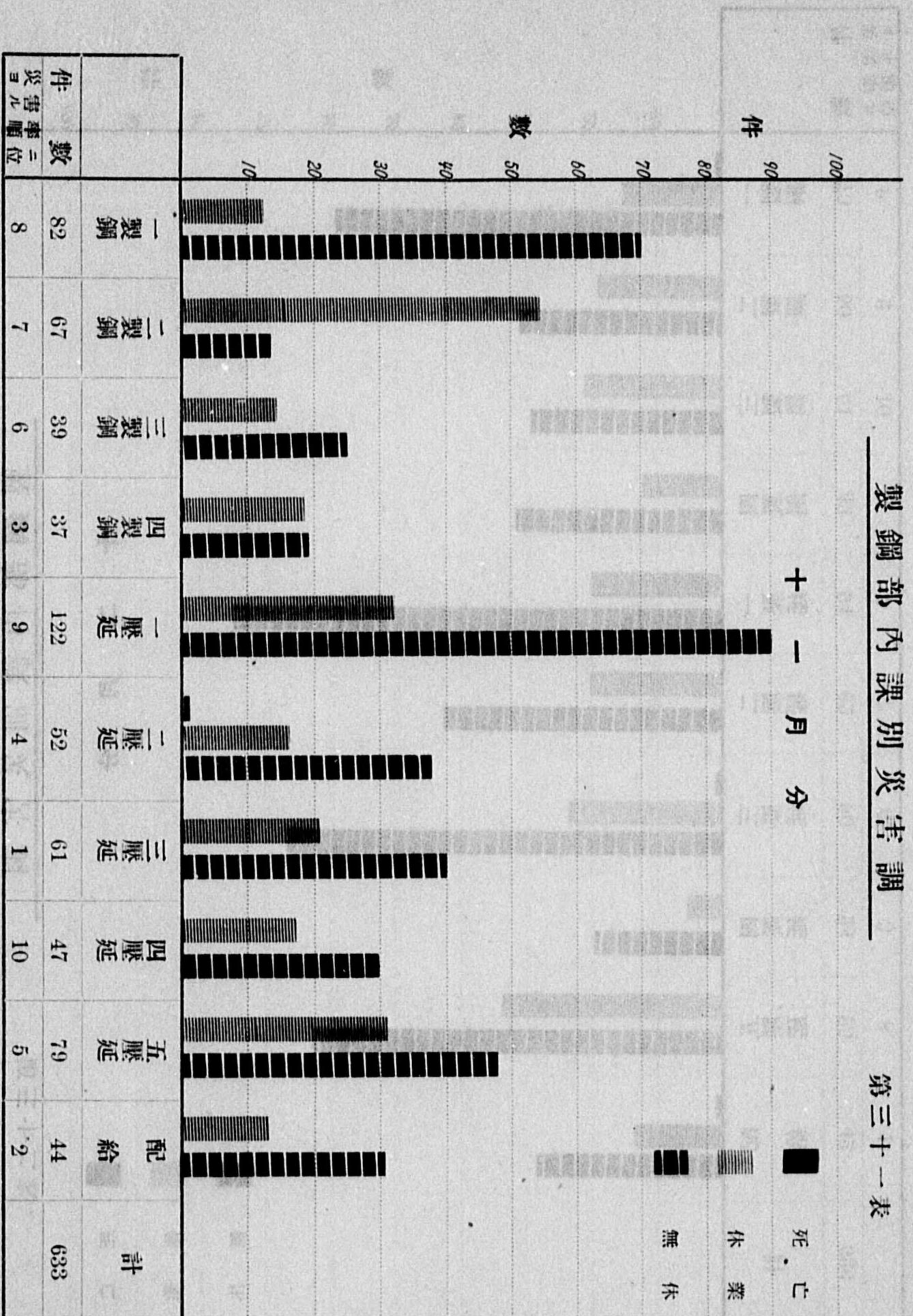
製鋼部内課別災害調

第三十表



製鋼部内課別災害調

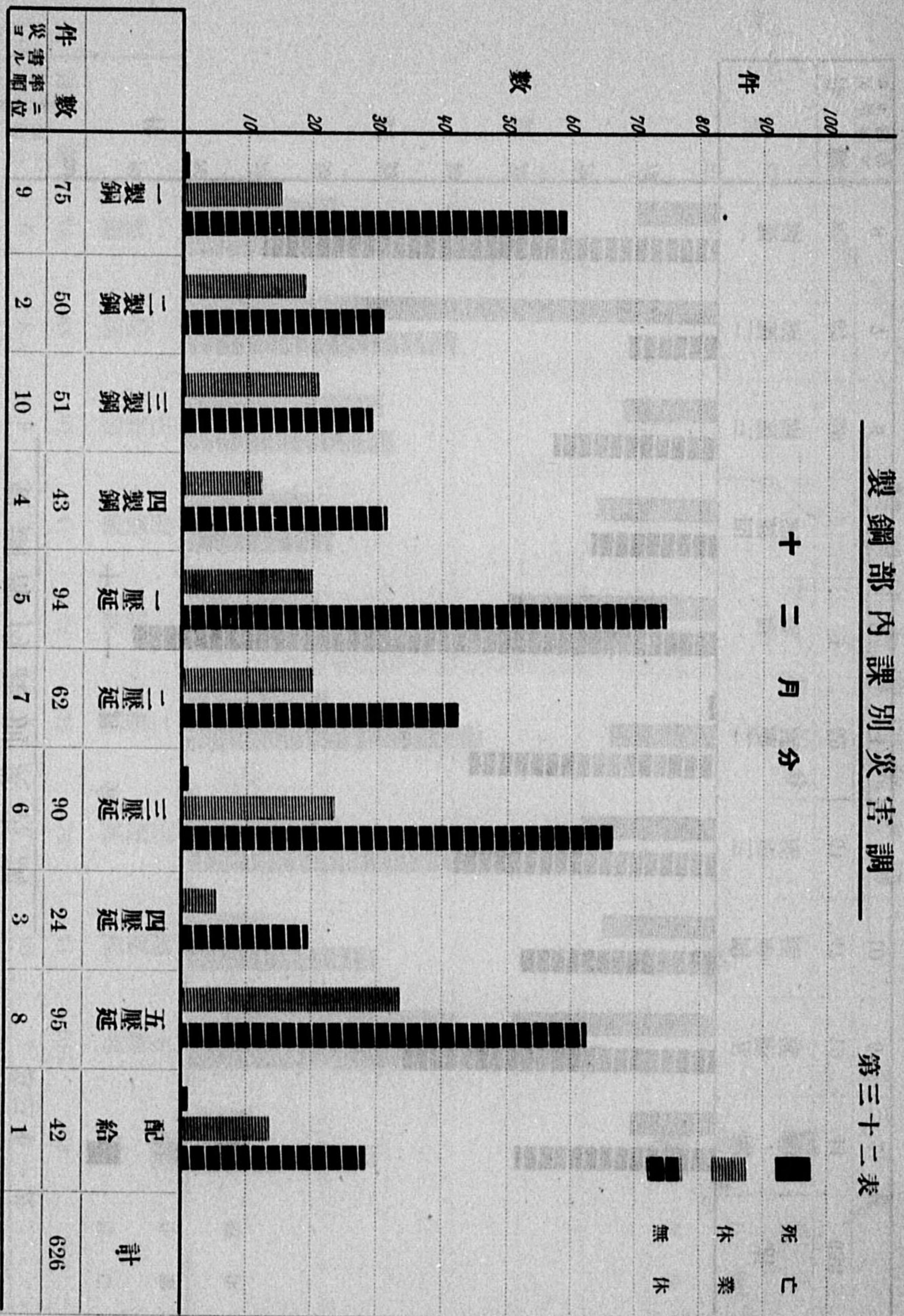
第三十一表



製鋼部内課別災害調

第三十二表

十二月分



昭和十五年七月二十二日印刷
昭和十五年七月二十九日發行

(非賣品)

福岡縣八幡市大字枝光八百十四番地ノ一
編輯兼發行者 日本製鐵株式會社
八幡製鐵所產業報國會製鋼部會

印刷者 福岡縣八幡市大字枝光二千五十一番地ノ四
日本製鐵株式會社
八幡製鐵所活版場
古賀干城

5098
N1717

終